経済学研究科
シ ラ バ ス

平成 30（2018）年度版

大 阪 市 立 大 学 大 学 院
経　済　学　研　究　科

『シラバス』の利用にあたって

2018 年度

大阪市立大学大学院
経済学研究科
現代経済専攻

この冊子は、講義の内容やテキストなどを紹介しています。履修科目の決定や日頃の勉学に役立ててください。

1. 修了のための履修要件等は『経済学研究科要覧』を参照してください。
2. 講義、演習の配当年、セメスター等は、時間割で確認してください。

目　　次

『シラバス』の利用にあたって…… 1
学年暦・カレンダー…… 2
経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて…… 4
大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表
　基礎科目…… 5
　分野科目…… 6
大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表
　分野科目…… 7
前期博士課程シラバス…… 8
　基礎科目　前期開講…… 8
　　後期開講…… 15
　分野科目　前期開講…… 23
　　後期開講…… 51
　研究指導…… 81
前期研究指導 1・2 及び修了論文指導担当教員一覧…… 85
後期博士課程シラバス…… 86
　分野科目　前期開講…… 86
　　後期開講…… 114
　研究指導…… 144
後期研究指導 1・2・3 担当教員一覧…… 147
注意事項…… 148
杉本キャンパスマップ…… 149
教員名簿…… 151

平成30年度学年暦

学年開始	4月 1日（日）
新入生ガイダンス	4月 2日（月）
入学式	4月 5日（木）
新入生健康診断	4月 6日（金）
前期授業開始日	4月10日（火）
振替授業日	5月 1日（火）月曜日の授業を実施
創立記念日	6月 1日（金）（通常通り授業実施）
振替授業日	7月18日（水）月曜日の授業を実施
授業・試験期間	7月23日（月）～8月 3日（金）
夏季休業	8月 4日（土）～9月14日（金）
研修期間	9月15日（土）～9月30日（日）
後期授業開始日	10月 1日（月）
振替授業日	10月30日（火）金曜日の授業を実施
振替授業日	11月21日（水）金曜日の授業を実施
冬季休業	12月22日（土）～1月 6日（日）
授業・試験期間	1月29日（火）～2月12日（火）
振替授業日	2月12日（火）月曜日の授業・試験を実施
研修期間	2月13日（水）～3月19日（火）
春季休業	3月20日（水）～

※ 振替授業日 ― 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。

※ 研修期間 ― 集中講義や補講などが行われることがある。

※ 授業・試験期間 ― 定期試験や授業を行う。

※ 卒業式 ― 日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月19日（木）5時限、20日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月19日（木）5限～、20日（金）午後～、21日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

10月31日（水）5時限、11月1日（木）全時限、11月2日（金）全時限

［大学祭開催日程：10月31日（水）～11月4日（日）］

・センター入試準備に伴う休講

平成31年1月18日（金）全時限

［センター試験：1月19日（土）・20日（日）］

平成30年度カレンダー

4月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

2日（月）新入生ガイダンス
5日（木）入学式
6日（金）新入生健康診断
10日（火）前期授業開始
19日（木）新歓祭5限休講
20日（金）新歓祭午後休講

5月	日	月	火	水	木	金	土
			1 月	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

1日（火）振替授業日
（月曜の授業を実施）

6月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

7月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18 月	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

18日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）
23日（月）～8月3日（金）
授業・試験期間

8月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

4日（土）～9月14日（金）
夏季休業期間

9月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

15日（土）～30日（日）
研修期間

10月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30 金	31			

1日（月）後期授業開始
30日（火）振替授業日
（金曜の授業を実施）
31日（水）大学祭5限休講

11月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21 金	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

1日（木）大学祭休講
2日（金）大学祭休講
21日（水）振替授業日
（金曜の授業を実施）

12月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

22日（土）～1月6日（日）
冬季休業期間

1月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

18日（金）センター試験に
伴う休講措置
29日（火）～2月12日（火）
授業・試験期間

2月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12 月	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		

12日（火）振替授業日
（月曜の授業・試験を実施）
13日（水）～3月19日（火）
研修期間

3月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

20日（水）～春季休業期間

経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて

経済学研究科専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバーは以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	対象課程	EM　：前期博士課程 ED　：後期博士課程
上３、４桁	科目の分野	BA　：基礎科目群 MI　：分野別科目群 （市場・制度経済研究分野） AC　：分野別科目群 （経済主体・ケイパビリティー研究分野） GR　：分野別科目群 （地域・グローバル経済研究分野） RG　：研究指導
上５桁	講義で使用される主要な言語	J　：日本語 E　：英語
上６桁	推奨される履修開始のセメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	5＝前期博士課程１年レベル 6＝前期博士課程２年レベル 7＝後期博士課程１年レベル 8＝後期博士課程２年レベル 9＝後期博士課程３年レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	1	2	3	4	5	6

平成３０年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）

基礎科目（現代経済基礎研究）Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics	中村(英)　他	8
現代経済基礎研究Ⅱ:歴史分析	彭	9
現代経済基礎研究Ⅲ:政策分析	辻	10
現代経済基礎研究Ⅵ-（1）:マクロ分析1	森	11
現代経済基礎研究Ⅶ-（1）:ミクロ分析1	北原	12
現代経済基礎研究Ⅷ-（1）:マルクス経済学1	齋藤	13
現代経済基礎研究Ⅸ-（1）:計量分析1	鹿野	14

後期（10月1日～3月31日）

基礎科目（現代経済基礎研究）Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(1):現代経済	滋野	15
現代経済基礎研究Ⅰ-(3):Global Economy	ウェザーズ	16
現代経済基礎研究Ⅳ:構造分析	松澤	17
現代経済基礎研究Ⅴ:国際分析	朴	18
現代経済基礎研究Ⅵ-（2）:マクロ分析2	中嶋	19
現代経済基礎研究Ⅶ-（2）:ミクロ分析2	岩波	20
現代経済基礎研究Ⅷ-（2）:マルクス経済学2	齋藤	21
現代経済基礎研究Ⅸ-（2）:計量分析2	鹿野	22

平成３０年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）
分野科目　（前期開講）

市場・制度経済研究分野		
科　目　名	担　当	ページ
近代経済理論研究・同演習	中　嶋	23・24
現代資本主義論研究・同演習	齋　藤	25・26
マクロ経済学研究・同演習	岡　澤	27・28
複雑系経済学研究・同演習	中　島	29・30
統計理論研究・同演習	中　川	31・32
経済主体・ケイパビリティー研究分野		
科　目　名	担　当	
社会政策論研究・同演習	杉　田	33・34
産業技術論研究・同演習	坂　上	35・36
地域・グローバル経済研究分野		
科　目　名	担　当	
都市経済論研究・同演習	小　玉	37・38
地方財政論研究・同演習	小　川	39・40
産業経済論研究・同演習	浦　西	41・42
日本経済史研究・同演習	彭	43・44
経済開発論研究・同演習	森　脇	45・46
国際協力論研究・同演習	岩　波	47・48
世界経済論研究・同演習	有　賀	49・50

後期（10月1日～3月31日）
分野科目　（後期開講）

市場・制度経済研究分野		
科　目　名	担　当	ページ
ミクロ経済学研究・同演習	北　原	51・52
マクロ経済動学研究・同演習	森	53・54
数量経済分析論研究・同演習	中村（英）	55・56
経済学説史研究・同演習	若　森	57・58
社会思想史研究・同演習	中村（健）	59・60
経済主体・ケイパビリティー研究分野		
科　目　名	担　当	
労働経済論研究・同演習	福　原	61・62
比較労使関係論研究・同演習	ウェザーズ	63・64
財政政策論研究・同演習	松　本	65・66
流通経済論研究・同演習	柴　田	67・68
金融経済論研究・同演習	辻	69・70
地域・グローバル経済研究分野		
科　目　名	担　当	
日本経済論研究・同演習	滋　野	71・72
東アジア経済論研究・同演習	朴	73・74
東南アジア経済論研究・同演習	金　子	75・76
アジア経済史研究・同演習	脇　村	77・78
国際経済論研究・同演習	久　保	79・80

平成３０年度　大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）
分野科目　（前期開講）

市場・制度経済研究分野		
科　目　名	担　当	ページ
近代経済理論研究特論・同演習	中　嶋	86・87
現代資本主義論研究特論・同演習	齋　藤	88・89
マクロ経済学研究特論・同演習	岡　澤	90・91
複雑系経済学研究特論・同演習	中　島	92・93
統計理論研究特論・同演習	中　川	94・95
経済主体・ケイパビリティー研究分野		
科　目　名	担　当	
社会政策論研究特論・同演習	杉　田	96・97
産業技術論研究特論・同演習	坂　上	98・99
地域・グローバル経済研究分野		
科　目　名	担　当	
都市経済論研究特論・同演習	小　玉	100・101
地方財政論研究特論・同演習	小　川	102・103
産業経済論研究特論・同演習	浦　西	104・105
日本経済史研究特論・同演習	彭	106・107
経済開発論研究特論・同演習	森　脇	108・109
国際協力論研究特論・同演習	岩　波	110・111
世界経済論研究特論・同演習	有　賀	112・113

後期（10月1日～3月31日）
分野科目　（後期開講）

市場・制度経済研究分野		
科　目　名	担　当	ページ
ミクロ経済学研究特論・同演習	北　原	114・115
マクロ経済動学研究特論・同演習	森	116・117
数量経済分析論研究特論・同演習	中村（英）	118・119
経済学説史研究特論・同演習	若　森	120・121
社会思想史研究特論・同演習	中村（健）	122・123
経済主体・ケイパビリティー研究分野		
科　目　名	担　当	
労働経済論研究特論・同演習	福　原	124・125
比較労使関係論研究特論・同演習	ウェザーズ	126・127
財政政策論研究特論・同演習	松　本	128・129
流通経済論研究特論・同演習	柴　田	130・131
金融経済論研究特論・同演習	辻	132・133
地域・グローバル経済研究分野		
科　目　名	担　当	
日本経済論研究特論・同演習	滋　野	134・135
東アジア経済論研究特論・同演習	朴	136・137
東南アジア経済論研究特論・同演習	金　子	138・139
アジア経済史研究特論・同演習	脇　村	140・141
国際経済論研究特論・同演習	久　保	142・143

前期博士課程

基礎科目

分野科目

研究指導

授業形態	講義	科目No.	EMBAE1502
科目名 現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹 他
Course Title Introduction to the Contemporary Economy Ⅰ-(2): Issues in Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

In this course each of the lecturers will show you different aspects of the contemporary economy under the pressure of globalization.

【授業の到達目標】

All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.

【授業内容・授業計画】

Three lecturers will speak about the following themes.
The Theme 1) What Does Mechanization Give Us? : Hideki Nakamura
The Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization: Kengo Nakamura
The Theme 3) The Global North/South Devide Revisited: Kohei Wakimura

第１回 Introduction: Hideki Nakamura
第２回 The Theme 1)-1: Mechanization in an Economy (Hideki Nakamura)
第３回 The Theme 1)-2: Mechanization, Wages, and Economic Growth (Hideki Nakamura)
第４回 The Theme 1)-3: Mechanization and Skilled and Unskilled Labor (Hideki Nakamura)
第５回 The Theme 1)-4: Mechanization and Employment (Hideki Nakamura)
第６回 The Theme 2)-1: Globalization of Economy (Kengo Nakamura)
第７回 The Theme 2)-2: Historical Origins of Economic Globalization (Kengo Nakamura)
第８回 The Theme 2)-3: Globalization of Politics (Kengo Nakamura)
第９回 The Theme 2)-4: Globalization of Communication, Society and Culture (Kengo Nakamura)
第10回 The Theme 3)-1: The Origin of Global North/South Devide (Kohei Wakimura)
第11回 The Theme 3)-2: Terms of Trade Debate (Kohei Wakimura)
第12回 The Theme 3)-3: New International Division of Labour (Kohei Wakimura)
第13回 The Theme 3)-4: Is there no North/South Divide? (Kohei Wakimura)
第14回 Summary: Kohei Wakimura
第15回 Submission of the Term Report

【事前・事後の学習の内容】

The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.

【評価方法】

Each lecturer will give you a subject of the term report, and you can choose the most favorable subject for your report. The students are requested to submit the term report at the end of the semester. The result will be graded according to the level of the report.

【テキスト又は参考書】

There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.

【受講生へのコメント】

The Lecturers expect that the students will learn how to situate themselves in the globalizing world.

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1504
科目名 現代経済基礎研究Ⅱ:歴史分析		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅡ:Historical Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを受講生に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。

【授業の到達目標】
経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。とくに、修士論文を作成するための資料分析力の訓練も意識している。

【授業内容・授業計画】
主に5つのテーマについて講義を進めていく。①通商制度の仕組み（とくに通商条約が成立する前の時代）、②港市の運営と商業空間、③商人団体の形成、④商業都市と市場圏、⑤産業振興と国産化。具体的な課題については、次の授業計画を参照。

第１回_イントロダクション
第２回_通商制度の分析（１）長崎会所の経営構造
第３回_通商制度の分析（２）「信牌」制のメカニズム
第４回_通商制度の分析（３）トレーディング・パス
第５回_通商制度の分析（４）取引契約
第６回_港市の運営（１）仲介業者
第７回_港市の運営（２）労働者とその編成
第８回_港市の商業空間―長崎・広州・釜山の比較―
第９回_商人団体の形成（１）糸割符仲間と五ヶ所商人
第10回_商人団体の形成（２）唐船貿易と「両局」
第11回_商業都市と市場圏（１）江戸時代の大坂
第12回_商業都市と市場圏（２）明清時代の蘇州
第13回_産業振興と国産化（１）生糸と織物産業
第14回_産業振興と国産化（２）磁器・砂糖・薬種
第15回_総括
＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
授業前、次回講義のテーマに関する基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。

【評価方法】
授業中の練習問題（50%）と小レポート（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
テキスト：とくに指定しない。
参考書：彭浩『近世日清通商関係史』（東京大学出版会、2015年）。ほかにも多数あり、授業中に指示する。

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1505
科目名 現代経済基礎研究Ⅲ:政策分析		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅢ:Economic Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
ミクロ経済学及びマクロ経済学の知識を前提に、金融政策論を学ぶ。特に、IS-LMモデル及び総需要曲線・総供給曲線を理解していることを前提に授業を行う。

【授業の到達目標】
金融政策論の基礎知識を習得し、現実の金融政策問題について経済学的に考える力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融政策手段など基本的な話から、日本の金融政策の話まで幅広く講義する予定です。

第１回_中央銀行
第２回_貨幣論(1)：貨幣の機能と定義
第３回_貨幣論(2)：貨幣供給
第４回_金融政策の理論(1)：IS-LMモデルと金融政策
第５回_金融政策の理論(2)：金融政策の有効性
第６回_金融政策の理論(3)：金融政策運営の２段階アプローチ
第７回_金融政策の理論(4)：裁量かルールか？
第８回_金融政策の理論(5)：開放経済下の金融政策
第９回_金融政策の理論(6)：マンデル＝フレミング・モデル
第10回_日本の金融政策(1)：高度成長期
第11回_日本の金融政策(2)：低成長期(金融自由化)
第12回_日本の金融政策(3)：低成長期(バブル)
第13回_日本の金融政策(4)：低成長期(1980年代の日本の金融政策の問題点)
第14回_日本の金融政策(5)：低成長期(1990年代の日本経済の構造問題)
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
前回の授業内容を復習しておくこと。
次回の授業テーマについて調べておくこと。

【評価方法】
期末試験による。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
微分を用いた計算ができることを前提に授業を行う。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1508
科目名 現代経済基礎研究Ⅵ-(1):マクロ分析1		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅥ-(1):Macroeconomics1		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
マクロ経済学の動学的手法を講義する。

【授業の到達目標】
マクロ経済学のミクロ的基礎として用いられる手法を理解することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
講義計画の順に動学的手法、最適化の手法を紹介する。
なお、経済学で用いる技術としての数学の習得なので、純粋数学というよりも経済学での例を中心とする。

第１回_ガイダンス
第２回_一階定差方程式
第３回_二階定差方程式
第４回_一階微分方程式
第５回_二階微分方程式
第６回_位相図（微分方程式）
第７回_位相図（定差方程式）
第８回_ラグランジュ乗数
第９回_クーン＝タッカー条件
第10回_最大値原理（連続型）
第11回_最大値原理（離散型）
第12回_ラムゼーモデル1－連続モデル－
第13回_ラムゼーモデル2－離散モデル－
第14回_世代重複モデル1－純粋モデル－
第15回_世代重複モデル2－年金－

【事前・事後の学習の内容】
講義前には必要な数学の基礎部分を復習しておく。講義後には出題された練習問題を解き、理解が不十分な点を文献等で復習しておく。また、次回の講義で質問する。

【評価方法】
平常点およびテストで評価する。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1510
科目名 現代経済基礎研究Ⅶ-(1):ミクロ分析1		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅦ-(1):Microeconomic Theory1		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
大学院入門レベルのミクロ経済学について学びます。本講義1では、特に、価格を所与とした消費者や生産者の選択行動について学びます。（ゲーム理論については、後期開講の2で学んでください。）

【授業の到達目標】
大学院レベルのミクロ経済学の基礎を習得する。特に、選択に関する情報から最適性の仮定により論理的（・数理的）に推測・予測を導き出す基礎技能を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
以下の流れで、講義形式で行います。テキストの該当章はそれぞれ第1章（選択と選好）、2・3章（消費者選択と選好）、5章（生産者選択と技術）、16章（市場均衡の性質）、数学付録（最適選択の数理）です。

第１回_ガイダンス
第２回_選択と選好①：顕示選好の弱公準
第３回_選択と選好②：選択の合理性
第４回_消費者選択と選好①：顕示選好の弱公準による行動予測
第５回_消費者選択と選好②：需要行動からの選好の推測
第６回_消費者選択と選好③：間接選好からの需要行動の予測
第７回_消費者選択と選好④：交換に関する効率性についての共通価格の含意
第８回_予備日
第９回_生産者選択と技術①：利潤最大化（供給行動からの利潤の推測）
第10回_生産者選択と技術②：費用最小化（費用関数からの供給行動の推測）
第11回_生産者選択と技術③：分担に関する効率性についての共通価格の含意
第12回_市場均衡の性質：効率性についての市場均衡の含意
第13回_最適選択の数理①：比較静学（包絡線定理）
第14回_最適選択の数理②：制約付き最適化における一階条件（ラグランジュ乗数）
第15回_予備日

【事前・事後の学習の内容】
復習用に何回か宿題を出します。

【評価方法】
期末試験によって評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：Mas-Collel, A., Whinston, M.D. and Green, J.R. (1995)『Microeconomic Theory』Oxford University Press（購入不要）
参考書：神取道弘（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社（（本講義を受けずとも）おすすめ）

【受講生へのコメント】
講義HP: http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2018micro.htm
（４月開設予定）

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1512
科目名 現代経済基礎研究Ⅷ-(1):マルクス経済学1		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅧ-(1):Marxian Political Economy1		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本講義では、マルクスの経済学批判についての正確な基本知識を、テクストの輪読を通じて獲得することを目標とする。今年はマルクス生誕200周年である。そこで、若いころから晩年までの主要なテキストを読みながら、マルクスの思想がどのように変化していったかを考えてみたい。その上でマルクスの経済学批判の今日的な意義について、解説やディスカッションを手掛かりに一緒に考えてみたいと思う。

【授業の到達目標】
マルクスの主要著作を講読し、テクストの解説ならび議論によって、その理論的な核心部分を正確に理解することを目標とする。受講生による毎回の予習とその予習範囲の報告（レジュメの作成）をもとにしたディスカッションを通じて、自分の言葉でマルクスの基本概念を説明できるようになることを目指す。

【授業内容・授業計画】
授業では各回ごとに担当を決め、担当者は該当部分のまとめを作成し、最初に発表することで議論の土台を準備する。こちらで若干の補足や解説を行った後に、全体での議論を通じて、テクストを様々な角度から批判的に吟味していく。

第１回_オリエンテーション
第２回_マルクスの思想とは？
第３回_『ヘーゲル法哲学批判序説』
第４回_『経済学・哲学草稿』①
第５回_『経済学・哲学草稿』②
第６回_『経済学・哲学草稿』③
第７回_『ドイツ・イデオロギー』①
第８回_『ドイツ・イデオロギー』②
第９回_『ドイツ・イデオロギー』③
第10回_『哲学の貧困』①
第11回_『哲学の貧困』②
第12回_『哲学の貧困』③
第13回_『共産党宣言』①
第14回_『共産党宣言』②
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業前に、指定された部分を通読し、重要な点、わからない点、批判すべき点などについて簡単なメモを作成し、授業でのディスカッションに向けた準備をしておくこと。
授業後に再読し、理解が深まったことを確認できれば望ましい。

【評価方法】
「まとめ」の発表を４０％、ディスカッションへの参加を４０％、学期末のレポートを２０％で評価する。

【テキスト又は参考書】
参考書としては、佐々木隆治『カール・マルクス』（ちくま新書）を薦める。

【受講生へのコメント】
マルクスの思想は難解である。また時代遅れとされることもある。それでも今日まで長年にわたって多くの人々に読み継がれてきた古典の偉大さを体感しながら、資本主義社会についての理解を共に深めていけることを願っている。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1514
科目名 現代経済基礎研究Ⅸ-(1):計量分析1		単位数 2	担当教員氏名 鹿野　繁樹
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅨ-(1):Econometrics1		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。

【授業の到達目標】
この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。

【授業内容・授業計画】
まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。
次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。
最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。

第１回_イントロダクション
第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布
第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布
第４回_統計的推測（1）：基礎編
第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手
第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS）
第７回_決定係数
第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定
第９回_回帰係数の仮説検定
第10回_統計ソフトgretl による回帰分析
第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS
第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数
第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型
第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数
第15回_ここまでの復習

【事前・事後の学習の内容】
講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。
テキスト章末の復習問題を解くこと。

【評価方法】
毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。

【テキスト又は参考書】
鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。

【受講生へのコメント】
計量分析２とセットの科目です。引き続き後期に計量分析２を受講して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1501
科目名 現代経済基礎研究Ⅰ-(1):現代経済		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Introduction to The Contemporary Economy Ⅰ-(1): Contemporary Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
わが国の人口は減少に転じ、少子・高齢化はいよいよ社会の大問題となっている。少子化への対応は、わが国のみならず先進諸国共通の課題である。本講義では、少子・高齢化に関する様々な問題について、経済的側面から多角的に、実証的裏付けに基づいた議論を行う。

【授業の到達目標】
日本経済の少子・高齢化に関連する論点を理解し、分析する力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
毎回、前半は講義を行い、後半にディスカッションをする。

第１回_講義の進め方
第２回_少子・高齢化－現状
第３回_少子・高齢化－要因
第４回_少子・高齢化－国際比較
第５回_少子・高齢化－政策
第６回_少子・高齢化－経済成長への影響
第７回_少子・高齢化と雇用
第８回_少子・高齢化と女性労働
第９回_少子・高齢化と消費・貯蓄
第10回_少子・高齢化と所得格差
第11回_少子・高齢化と社会保障のあり方
第12回_少子・高齢化と年金
第13回_少子・高齢化と医療
第14回_少子・高齢化と介護等
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。
授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】
期末試験、レポート、ディスカッションへの参加によって総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、特になし。

【受講生へのコメント】
ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	講義	科目No.	EMBAE1503
科目名 現代経済基礎研究Ⅰ-(3):Global Economy		単位数 2	担当教員氏名 チャールズ・ウェザーズ
Course Title Introduction to The Contemporary Economy Ⅰ-(3):Global Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
英語で表現できるグローバルな人材を育成することを目的とします。

【授業の到達目標】
英語の資料を読み、深く分析能力を開発ことを目標とします。また、英語でのプレゼンテーションスキルを開発します。

【授業内容・授業計画】
学期の前半には、新聞などからの情報を理解し、活発な議論を行なうことによって、グローバル社会の理解と英語でのコミュニケーション能力を身につけてもらいます。後半にはそれぞれの課題に沿ったプレゼンテーションを行なってもらい、英語で表現する能力を開発します。授業は、全て英語で行ないます。

第１回_Orientation
第２回_Teacher leads first class
第３回_First presentation practice
第４回_Students lead discussion
第５回_Second student-led presentation
第６回_Presentation planning
第７回_Second student-led presentation and analytic skills
第８回_Guidance on English-language presentations
第９回_Information gathering
第10回_Writing skills workshop
第11回_Workshop on English-language presentations
第12回_Student presentations, First group
第13回_Student presentations, Second group
第14回_Student presentations, Third group
第15回_Final discussion and course conclusion

【事前・事後の学習の内容】
授業の前半には、毎週、資料を読んで、ディスカッションの準備をしてもらいます。後半は、主にプレゼンテーションを開発する活動を行います。

【評価方法】
授業への積極的な準備及び参加が最も重要です。また、プレゼンテーションも評価の対象とします。

【テキスト又は参考書】
テキストおよび参考書：前半、毎週、学生・院生とともに面白い資料を選択します。

【受講生へのコメント】
10人を定員としているため、参加希望の大学院生には事前面談を行います。
面談を受けない院生の参加は認めません。面談は10月初めに行う予定です。
詳細は9月頃に掲示します。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1506
科目名 現代経済基礎研究Ⅳ:構造分析		単位数 2	担当教員氏名 松澤　俊雄
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅣ:Structural Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済循環における産業構造と産業連関（および産業連関表）についての理解を図るとともに、運輸産業を例にして企業行動と利用者行動による「供給」・「需要」が資源配分（社会厚生）上や、地域社会の活性化等にどのように関わるかをみてゆきたい。地域・都市交通の性質を理解し、整備・運営上の方策や方向性についても探求してゆきたい。

【授業の到達目標】
産業連関表の基礎的知識について学ぶ。都市交通の「性質」についての学習を踏まえ、運輸産業の構造を反映して整備・運営上の在り方（政策）についての思考力を養う。また、政策について経済学的（価値論的）および都市構造論的ソューションの両面から考えられるようにしたい。

【授業内容・授業計画】
経済循環において各産業の生み出す生産物が他の産業に中間生産物として、また家計・政府などに最終需要としてどのように取引されるかを考える。つぎに運輸・交通産業を例としてその供給・需要構造をマクロ的に把握するとともに、企業・家計による需要について社会・経済的な要因分析を行う。また利用者獲得を巡る企業間・産業間競争について分析もおこなう。後半では地域・都市交通サービスを産業としてみるとともに、利用者からみた広い意味での公共財として、その整備・運営についての方向性を考えたい。
第１回_経済主体と経済循環
第２回_産業構造と産業連関表[I]
第３回_産業構造と産業連関表[II]（産業連関分析）
第４回_運輸産業の需要構造[I]
第５回_運輸産業の需要構造[II]
第６回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[I]（利用者費用とサービス生産費用）
第７回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[II]
第８回_交通政策と便益の測定(Marshall Measure,CV,EV,C-B分析)
第９回_運輸事業における価格形成（MC,Ramsey,Peak-Load等）と評価
第10回_都市交通の性質と分析[I]
第11回_都市交通の性質と分析[II](自動車交通を含む)
第12回_都市の活性化と交通整備
第13回_都市交通の運賃設定
第14回_域内バス産業の規制改革
第15回_地域・都市の総合交通政策
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義資料に事前に目を通すようにして下さい。またできれば復習もおこなって下さい。

【評価方法】
レポート課題の提出（70%）；期末試験（30%）で評価する予定。

【テキスト又は参考書】
テキスト：使用予定：別途指示する。講義資料を必要に応じて配布する（紙媒体・ネット上掲示）

参考書：国土交通省監修『交通経済統計要覧』（最新年版）(財)運輸政策研究機構発行；『国土交通白書』；ホームページでも、政策・統計等をダウンロード出来ます。 http://www.mlit.go.jp/
国土交通白書など、国のHPからダウンロード可能な統計データ。

【受講生へのコメント】
日頃から運輸・交通問題に関心をもってマスメディア等に接して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1507
科目名 現代経済基礎研究Ⅴ:国際分析		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Introduction to The Contemporary Economy Ⅴ:International Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
開発経済の基本理論を用いて、植民地化、国民経済の形成過程、開発独裁（権威主義体制下での経済開発）、経済民主化、多国籍企業の台頭、多国間の経済協力などトピックスを中心に、韓国や北朝鮮を事例に経済・社会構造の変化について報告する。

【授業の到達目標】
東アジア経済の分析理論に関する基本的枠組みを習得し、開発途上国が直面する諸問題について考える力（問題解決の方法）を身につける。

【授業内容・授業計画】
本講義では、以下のようなトピックスに関する先行研究を材料に講義を行い、テーマの課題を中心に受講生と議論を
行う。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論－朝鮮における植民地化の功罪
第３回_低開発の発展－朝鮮におえる植民地開発は開発か、低開発か？
第４回_世界システムと不等価交換－新植論の功罪
第５回_後発性利益と後発性不利益－第四世代工業化をどう理解すべきか
第６回_新国際分業－ＯＥＣＤレポート『新興工業国の挑戦』の波紋
第７回_企業内国際分業－韓国財閥と多国籍企業
第８回_プロダクトライフサイクル論－韓国財閥にみるキャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済－北朝鮮にみる「限定的な改革開放政策」
第10回_開発独裁－韓国における権威主義体制下の開発
第11回_経済援助と経済制裁－北朝鮮とどう向き合うか
第12回_経済のグローバル化と通貨危機－通貨危機に対する韓国とマレーシアの対応
第13回_経済協力と自由貿易協定－韓国と米国のＦＴＡについて考える
第14回_経済ナショナリズムと保護主義－韓国における進歩派政権の保守主義の背景
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
講義に関するトピックスに関するテキストの部分を事前に学習し、理解しておくこと。また毎回、課題を出すので、次回までに各自で学習しておくことが望ましい。

【評価方法】
講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
朴一『20世紀東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年刊

【受講生へのコメント】
講義には絶えず積極的な姿勢で臨むこと。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1509
科目名 現代経済基礎研究Ⅵ-(2):マクロ分析2		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅥ-(2):Macroeconomics2		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
簡単化した家計行動を前提としたモデルをもとに、経済発展と格差の諸側面を検討する。

【授業の到達目標】
単純な家計行動を出発点として、経済全体の成長や所得格差がどのように説明できるかの概要を把握すること。

【授業内容・授業計画】
消費と貯蓄を選択する単純な家計モデルを前提として、人的・物的資本の動きを、差分方程式を利用して検討する。初期値、信用制度、教育費用が経済発展と不平等とにどのように影響するかを調べる。また、このモデルをハロッド・ドーマーの成長理論と結合し、経済成長と格差のパターンを考察する。

第１回_授業計画の説明
第２回_家計の基本モデルの解説
第３回_経済発展への信用制度の役割
第４回_教育による人的資本形成－信用制度がない場合
第５回_教育による人的資本形成－信用制度がある場合
第６回_戦後日本経済の概観
第７回_ハロッド・ドーマーモデルとの結合
第８回_ハロッド・ドーマーモデルとの結合－労働力移動終了後
第９回_ハロッド・ドーマーモデルとの結合－労働力人口成長停止の効果
第10回_人口高齢化についての基本モデルの解説
第11回_人口高齢化と年金制度－積み立て型の場合
第12回_人口高齢化と年金制度－賦課方式の場合
第13回_人口高齢多と年金制度－固定係数モデル
第14回_人口高齢化と年金制度－まとめ
第15回_授業全体のまとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前にテキストの該当部分を読み、数式も確認しておくこと。また、毎回の授業内容を復習することで内容の定着をはかること。

【評価方法】
報告と議論への参加状況とを考慮して評価する。

【テキスト又は参考書】
『経済発展と格差』、中嶋哲也著、現代図書、2015年

【受講生へのコメント】
マクロ分析Iの履修と差分方程式の知識とを前提とする。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1511
科目名 現代経済基礎研究Ⅶ-(2):ミクロ分析2		単位数 2	担当教員氏名 岩波　由香里
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅦ-(2):Microeconomic Theory2		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

大学院レベルのゲーム理論について学ぶ。

【授業の到達目標】

完備情報ゲームと不完備情報ゲームについて理解した上で、研究に用いることができるように応用力を伸ばす。

【授業内容・授業計画】

講義は予告なく変更されることがある。

第１回_はじめに
第２回_ナッシュ均衡
第３回_混合戦略
第４回_部分ゲーム完全均衡
第５回_交渉
第６回_繰り返しゲーム①
第７回_繰り返しゲーム②
第８回_完全ベイジアン均衡
第９回_シグナリング①
第10回_シグナリング②
第11回_モラル・ハザード①
第12回_モラル・ハザード②
第13回_逆淘汰①
第14回_逆淘汰②
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

テキストの該当箇所を読んで、予習・復習をすること。

【評価方法】

期末試験　100%

【テキスト又は参考書】

テキスト：神取道弘．2014年．『ミクロ経済学の力』日本評論社.

【受講生へのコメント】

授業中に私語をするなど他の学生に対して迷惑行為を行う者は、失格にする。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1513
科目名 現代経済基礎研究Ⅷ-(2):マルクス経済学2		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅧ-(2):Marxian Political Economy2		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本講義では前期に引き続き、マルクスの輪読を継続し、マルクスの経済学批判についての理解を深ることを目指す。前期には、初期の哲学的作品を中心に扱ったが、後期では中期後期の経済学や政治学関連の諸著作を読み、マルクスの思想への理解を深めていく。

【授業の到達目標】
前期と同様に、テクストの解説ならび議論によって、その核心部分を正確に理解することを目標とする。受講生による毎回の予習とその予習範囲の報告をもとにしたディスカッションを通じて、自分の言葉でマルクスの基本概念を説明できるようになることを目指す。

【授業内容・授業計画】
授業では各回ごとに担当を決め、担当者は該当部分のまとめを作成し、最初に発表することで議論の土台を準備する。こちらで若干の補足や解説を行った後に、ディスカッションを通じて、テクストを批判的に吟味していく。

第１回_オリエンテーション
第２回_前期の復習
第３回_『経済学批判要綱』①
第４回_『経済学批判要綱』②
第５回_『経済学批判要綱』③
第６回_『経済学批判要綱』④
第７回_『経済学批判』
第８回_『資本論』①
第９回_『資本論』②
第10回_『資本論』③
第11回_『資本論』④
第12回_『ゴータ綱領批判』①
第13回_『ゴータ綱領批判』②
第14回_「ザスーリチへの手紙」
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業前に、指定された部分を通読し、重要な点、わからない点、批判すべき点などについて簡単なメモを作成し、授業でのディスカッションに向けた準備をしておくこと。
授業後に再読し、理解が深まったことを確認できれば望ましい。

【評価方法】
「まとめ」の発表を４０％、ディスカッションへの参加を４０％、学期末のレポートを２０％で評価する。

【テキスト又は参考書】
参考書としては、大谷禎之介『図解社会経済学』を薦める。

【受講生へのコメント】
マルクスの著作はどれも難解だが、特に『要綱』や『資本論』は難しい。丁寧に文章を読むことで、マルクスの考えが浮かび上がってくる瞬間を共に体験したいと思う。

授業形態	講義	科目No.	EMBAJ1515
科目名 現代経済基礎研究Ⅸ-(2):計量分析2		単位数 2	担当教員氏名 鹿野　繁樹
Course Title Introduction to The Contemporary EconomyⅨ-(2):Econometrics2		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。

【授業の到達目標】
この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。
次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。
そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。
最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。

第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編
第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編
第３回_漸近理論の基礎
第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数
第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS
第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布
第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS
第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？
第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS
第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編
第11回_因果関係を立証できるか？
第12回_最尤法（1）：基礎編
第13回_最尤法（2）：プロビット
第14回_最尤法（3）：トービット
第15回_ここまでの復習

【事前・事後の学習の内容】
講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。
テキスト章末の復習問題を解くこと。

【評価方法】
毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。

【テキスト又は参考書】
鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。

【受講生へのコメント】
計量分析１とセットの科目です。前期に計量分析１を受講して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1601
科目名 近代経済理論研究		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Lecture on Studies of Modern Economic Theory		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
世代重複モデルの研究

【授業の到達目標】
マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が、理解できるようになること。

【授業内容・授業計画】
マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを検討する。

第１回_授業の進め方の説明
第２回_教科書的世代重複モデル
第３回_教科書的世代重複モデルの含意
第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入
第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度
第６回_固定係数の下での世代重複モデル
第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意
第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度
第９回_中間まとめ
第10回_技術進歩について
第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩
第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩
第13回_技術進歩の一般的効果
第14回_質問と回答
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った疑問点を整理しておく。

【評価方法】
毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。

【テキスト又は参考書】
授業の初回に提示する。

【受講生へのコメント】
基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1602
科目名 近代経済理論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Seminar on Studies of Modern Economic Theory		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
世代重複モデルの研究

【授業の到達目標】
マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が理解でき、さらに自分で運用ができるようになること。

【授業内容・授業計画】
マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを、参加者自ら報告・計算もしながら検討する。

第１回_授業の進め方の説明
第２回_教科書的世代重複モデル
第３回_教科書的世代重複モデルの含意
第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入
第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度
第６回_固定係数の下での世代重複モデル
第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意
第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度
第９回_中間まとめ
第10回_技術進歩について
第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩
第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩
第13回_技術進歩の一般的効果
第14回_質問と回答
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った疑問点を整理しておく。

【評価方法】
毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。

【テキスト又は参考書】
授業の初回に提示する。

【受講生へのコメント】
基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1603
科目名 現代資本主義論研究		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
「新自由主義」とはいったいなんであるのか？　新自由主義はどのように世界を変え、資本主義に何をもたらしたのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、新自由主義の政策とその問題点（経済格差、恐慌、環境破壊など）について学んでいく。同時に、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほど役立つかについても検討していきたい。

【授業の到達目標】
自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。
読んだ研究文献を元にレジュメ作成・研究報告を行い、ディスカッションを行う。

【授業内容・授業計画】
まずは、カール・マルクスの議論を概観する。そのうえで、リーマンショック以降の英米圏での論争を中心に、マルクス主義的な新自由主義批判を考察していく。ハーヴェイ、フォスター、ブレナー、クライマン、小西らの議論を中心に現代資本主義が抱える問題点について、議論していきたい。
関連テーマについての研究報告も歓迎する。

以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。
第１回_イントロダクション
第２回_利潤率の傾向的低下
第３回_マルクスの恐慌論
第４回_利潤率の傾向的低下への反論
第５回_新自由主義とは何か？
第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論
第７回_フォスターの過少消費説
第８回_フォスターの金融恐慌論
第９回_ブレナーの新自由主義批判
第10回_ブレナーの恐慌論
第11回_クライマンのマルクス擁護
第12回_クライマンの恐慌論
第13回_クライマンのフォスター、ハーヴェイ、ブレナー批判
第14回_小西の恐慌論と資本主義の「成熟」
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。
関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。

【評価方法】
報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
その度ごとに指定する。
英語の論文が中心となるので注意されたい。

【受講生へのコメント】
参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1604
科目名 現代資本主義論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
新自由主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。

【授業の到達目標】
英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。

【授業内容・授業計画】
引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて新自由主義についての考察を深める。
違ったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。

第１回_イントロダクション
第２回_利潤率の傾向的低下
第３回_マルクスの恐慌論
第４回_利潤率の傾向的低下への反論
第５回_新自由主義とは何か？
第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論
第７回_フォスターの過少消費説
第８回_フォスターの金融恐慌論
第９回_ブレナーの新自由主義批判
第10回_ブレナーの恐慌論
第11回_クライマンのマルクス擁護
第12回_クライマンの恐慌論
第13回_クライマンのフォスター、ハーヴェイ、ブレナー批判
第14回_小西の恐慌論と資本主義の「成熟」
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。
事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。

【評価方法】
報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
その度ごとに指定する。

【受講生へのコメント】
オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるように心がけたいと思っています。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1607
科目名 マクロ経済学研究		単位数 2	担当教員氏名 岡澤 亮介
Course Title Lecture on Macroeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。

【授業の到達目標】
制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解する。

【授業内容・授業計画】
下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。

第１回_ ガイダンス
第２回_ 文化と経済発展① 実証
第３回_ 文化と経済発展② 理論
第４回_ 文化と経済発展③ 総括
第５回_ 文化と制度① 私的所有権
第６回_ 文化と制度② 労使関係
第７回_ 文化と制度③ 再分配
第８回_ 文化と制度④ 総括
第９回_ 家族の絆と信頼① 移住
第10回_ 家族の絆と信頼② 出産
第11回_ 家族の絆と信頼③ 総括
第12回_ 家族とマクロ経済学① 人口動態
第13回_ 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転
第14回_ 家族とマクロ経済学③ 総括
第15回_ まとめ

【事前・事後の学習の内容】
参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。

【評価方法】
平常点によって評価します。

【テキスト又は参考書】
Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014.
M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.

【受講生へのコメント】
大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1608
科目名 マクロ経済学研究演習		単位数 2	担当教員氏名 岡澤 亮介
Course Title Seminar on Macroeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読したうえで、当該分野に関するレポートを作成する。

【授業の到達目標】
制度と経済発展の分野について最新の研究を踏まえて独自の研究の可能性について検討する。

【授業内容・授業計画】
下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。

第１回_ ガイダンス
第２回_ 文化と経済発展① 実証
第３回_ 文化と経済発展② 理論
第４回_ 文化と経済発展③ 総括
第５回_ 文化と制度① 私的所有権
第６回_ 文化と制度② 労使関係
第７回_ 文化と制度③ 再分配
第８回_ 文化と制度④ 総括
第９回_ 家族の絆と信頼① 移住
第10回_ 家族の絆と信頼② 出産
第11回_ 家族の絆と信頼③ 総括
第12回_ 家族とマクロ経済学① 人口動態
第13回_ 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転
第14回_ 家族とマクロ経済学③ 総括
第15回_ まとめ

【事前・事後の学習の内容】
参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。

【評価方法】
平常点によって評価します。

【テキスト又は参考書】
Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014.
M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.

【受講生へのコメント】
大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1613
科目名 複雑系経済学研究		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Lecture on Economics of Complex Systems		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この講義では経済分野における近年の研究をサーベイする。

【授業の到達目標】
複雑系を応用して経済現象を理解し、それを元に独自の研究課題を発見し、研究を遂行できる能力を身に着けることを目標にする。

【授業内容・授業計画】
複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。

第１回_ガイダンス
第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price
第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China
第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends?
第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System.
第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market
第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation
第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire
第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption
第10回_Why Should the Economy be Competitive?
第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle
第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics
第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure
第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction
第15回_Indian Food Supply Chains: a Game and Model to Study Economic Behavior

【事前・事後の学習の内容】
文献内容のレジュメを作成する。

【評価方法】
授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。

【テキスト又は参考書】
Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011

【受講生へのコメント】
コンピュータを用いたエージェント・ベース・シミュレーションに興味のある学生の受講を望む。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1614
科目名 複雑系経済学研究演習		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Seminar on Economics of Complex Systems		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピューター上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析するデータマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。

【授業の到達目標】
複雑系経済学研究に必要なシミュレーション技能を身に着けることを目標にする。

【授業内容・授業計画】
ペア科目である「複雑系経済学研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現する。論文に掲載されている結果を再現することで、その結果が出るメカニズムを理解する。また、論文で取り上げられていない論点について討議する。

第１回_ガイダンス
第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price
第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China
第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends?
第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System.
第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market
第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation
第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire
第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption
第10回_Why Should the Economy be Competitive?
第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle
第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics
第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure
第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction
第15回_Indian Food Supply Chains: a Game and Model to Study Economic Behavior

【事前・事後の学習の内容】
「複雑系経済学研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる図表を再現する。更に、論文で触れられていない論点を見つけてくる。

【評価方法】
授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。

【テキスト又は参考書】
Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011

【受講生へのコメント】
JAVAによるプログラムが必要である。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1627
科目名 統計理論研究		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Lecture on Statistics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。

【授業の到達目標】

欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。

【授業内容・授業計画】

テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。

第１回_ガイダンス
第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節
第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節
第４回_第9章　推定（1）1節2節
第５回_第9章　推定（2）3節4節
第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節
第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節
第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論
第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節
第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節
第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節
第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節
第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節
第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。
予復習は必須である。

【評価方法】

平常点

【テキスト又は参考書】

森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣

【受講生へのコメント】

基礎こそ大事です！

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1628
科目名 統計理論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Seminar on Statistics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。こちらの演習では、問題演習を行う。

【授業の到達目標】

欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。

【授業内容・授業計画】

テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。こちらの演習では、問題演習を行う。

第１回_ガイダンス
第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節
第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節
第４回_第9章　推定（1）1節2節
第５回_第9章　推定（2）3節4節
第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節
第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節
第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論
第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節
第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節
第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節
第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節
第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節
第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。
予復習は必須である。

【評価方法】

平常点

【テキスト又は参考書】

森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣

【受講生へのコメント】

問題演習をいつするか？今でしょ！

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1601
科目名 社会政策論研究		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂
Course Title Lecture on Social Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

社会政策・人口問題の専門知識を習得する。

【授業の到達目標】

社会政策と人口問題の今日的動向について理解を深める。

【授業内容・授業計画】

社会政策と人口問題の専門知識を提供する。

第１回_　ガイダンス
第２回_　変わる人口潮流
第３回_　日本の人口動向①
第４回_　日本の人口動向②
第５回_　長寿化とその影響
第６回_　少子化とその影響
第７回_　ライフコースの多様化とその影響
第８回_　世界の人口動向①
第９回_　世界の人口動向②
第10回_　世界の人口動向③
第11回_　少子高齢化時代の政策論議①
第12回_　少子高齢化時代の政策論議②
第13回_　人口変動時代の社会政策
第14回_　将来の展望
第15回_　まとめ

【事前・事後の学習の内容】

講義内で指示する。

【評価方法】

平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

初回の講義で指定する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1602
科目名 社会政策論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂
Course Title Seminar on Social Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

社会政策・人口問題に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。

【授業の到達目標】

社会政策・人口問題に関する文献資料を読み解き、社会政策に関する研究報告をする。

【授業内容・授業計画】

文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。

第１回_　ガイダンス
第２回_　文献資料の要約報告と討論　人口動向
第３回_　文献資料の要約報告と討論　生き方の変化
第４回_　文献資料の要約報告と討論　世界と日本
第５回_　文献資料の要約報告と討論　将来の人口
第６回_　文献資料の要約報告と討論　人口問題と社会政策
第７回_　文献資料の要約報告と討論　社会保障改革
第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１の報告
第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２の報告
第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３の報告
第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４の報告
第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５の報告
第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６の報告
第14回_　受講者による研究発表とコメント　受講者７の報告
第15回_　まとめ

【事前・事後の学習の内容】

文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。

【評価方法】

平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

初回の講義で指定する。

【受講生へのコメント】

特になし。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1629
科目名 産業技術論研究		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Lecture on Philosophy of Industrial Technologies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
産業技術論・技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究する。

【授業の到達目標】
産業技術論・技術史研究に係わる基本的素養の獲得。

【授業内容・授業計画】
デジタル・エレクトロニクス技術史を繙く。

第１回_ガイダンス
第２回_産業技術論研究、入門１　バベジの計算機
第３回_産業技術論研究、入門２　チューリング・マシン
第４回_産業技術論研究、入門３　ENIAC
第５回_産業技術論研究、入門４　EDVAC
第６回_産業技術論研究、基礎１　マイコン4004
第７回_産業技術論研究、基礎２　マイコン8008
第８回_産業技術論研究、基礎３　マイコン8080
第９回_産業技術論研究、基礎４　マイコン8086/8088
第10回_産業技術論研究、基礎５　消去型PROM
第11回_産業技術論研究、応用１　ARM6
第12回_産業技術論研究、応用２　LSI C5X
第13回_産業技術論研究、応用３　第5世代コンピュータ
第14回_産業技術論研究、応用４　AI
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
研究実績を将来的展望の下に継続・発展させる。

【評価方法】
期末レポートによる。

【テキスト又は参考書】
随時選定。

【受講生へのコメント】
修士論文から博士論文への計画性を重視します。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1630
科目名 産業技術論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Seminar on Philosophy of Industrial Technologies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
産業技術論・技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し独自の視点を構築する。

【授業の到達目標】
産業技術論・技術史研究に係わる応用的素養の獲得。

【授業内容・授業計画】
デジタル・エレクトロニクス技術史を繙き、独自の問題を発掘する。

第１回_産業技術論研究入門、文献探索１　機械式計算機
第２回_産業技術論研究入門、文献探索２　真空管式計算機
第３回_産業技術論研究入門、文献探索３　チューリング・マシン
第４回_産業技術論研究入門、文献探索４　ノイマン型プログラム内蔵計算機
第５回_産業技術論研究入門、１についての文献批判と考証
第６回_産業技術論研究入門、２についての文献批判と考証
第７回_産業技術論研究入門、３についての文献批判と考証
第８回_産業技術論研究入門、４についての文献批判と考証
第９回_産業技術論研究入門、文献批判と考証：総合
第10回_産業技術論研究入門、１についてのサーヴェイ・レポート執筆・討議
第11回_産業技術論研究入門、２についてのサーヴェイ・レポート執筆・討議２
第12回_産業技術論研究入門、３についてのサーヴェイ・レポート執筆・討議３
第13回_産業技術論研究入門、４についてのサーヴェイ・レポート執筆・討議４
第14回_産業技術論研究入門、サーヴェイ・レポート全体についての総括的討議
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
既存研究全般を見通す研究を将来的展望の下に進める。

【評価方法】
期末サーヴェイ・レポートによる。

【テキスト又は参考書】
随時選定、提供。

【受講生へのコメント】
修士論文から博士論文への計画性を重視します。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1603
科目名 都市経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 小玉　徹
Course Title Lecture on Urban Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

ポスト工業化社会の到来とともに「新しい社会リスク」という妖怪が世界を席巻している。かつての工業化時代における教育、雇用、家族形成までの単線的なライフ・トランジションのプロセスは、長期化、複線化してきている。そのことで「個人の裁量度」は高まり、多様な人生へ展望が開かれているかのように見える。しかし、多くの若者は「強いられた個人主義」のもとで、ライフ・トランジションの諸困難に直面している。

他方で「新しい社会リスク」への対応をめぐり、その責任を国家ではなく、個人と家族へ押し付ける傾向がますます強まってきている。

【授業の到達目標】

格差社会、分極化される若者（ユース・ディバイド）という事態に、われわれは、どう対処すべきなのか。実社会でトランジションの諸困難に直面している皆さんとともに考え、理解を深めることを目標とする。

【授業内容・授業計画】

通常の講義形式で行う。

第１回_「新しい社会リスク」とわたしたち
第２回_ポスト工業社会と「新しいリスク」
第３回_若者と「新しい社会リスク」
第４回_家族と「新しい社会リスク」
第５回_女性と「新しい社会リスク」
第６回_教育と「新しい社会リスク」
第７回_雇用と「新しい社会リスク」
第８回_住宅と「新しい社会リスク」
第９回_「新しい社会リスク」への対応（社会民主主義）
第10回_「新しい社会リスク」への対応（保守主義）
第11回_「新しい社会リスク」への対応（自由主義）
第12回_「新しい社会リスク」への対応（南欧）
第13回_「新しい社会リスク」への対応（東アジア）
第14回_これからの日本の課題　入門
第15回_これからの日本の課題　発展

【事前・事後の学習の内容】

テキストの予習と授業内容の復習を行うこと。

【評価方法】

授業への取り組み、報告などから、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】

小玉徹『福祉レジームの変容と都市再生』（ミルヴァ書房、2010年）
小玉徹『居住の貧困と「賃貸世代」―国際比較でみる住宅政策』（明石書房、2017年）

【受講生へのコメント】

意欲的に取り組むこと。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1604
科目名 都市経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 小玉　徹
Course Title Seminar on Urban Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

ポスト工業化社会の到来とともに「新しい社会リスク」という妖怪が世界を席巻している。かつての工業化時代における教育、雇用、家族形成までの単線的なライフ・トランジションのプロセスは、長期化、複線化してきている。そのことで「個人の裁量度」は高まり、多様な人生へ展望が開かれているかのように見える。しかし、多くの若者は「強いられた個人主義」のもとで、ライフ・トランジションの諸困難に直面している。

他方で「新しい社会リスク」への対応をめぐり、その責任を国家ではなく、個人と家族へ押し付ける傾向がますます強まってきている。

【授業の到達目標】

格差社会、分極化される若者（ユース・ディバイド）という事態に、われわれは、どう対処すべきなのか。実社会でトランジションの諸困難に直面している皆さんとともに考え、理解を深めた上で、実践的に検証することを目標とする。

【授業内容・授業計画】

通常の講義形式で行う。

第１回_「新しい社会リスク」とわたしたち
第２回_ポスト工業社会と「新しいリスク」
第３回_若者と「新しい社会リスク」
第４回_家族と「新しい社会リスク」
第５回_女性と「新しい社会リスク」
第６回_教育と「新しい社会リスク」
第７回_雇用と「新しい社会リスク」
第８回_住宅と「新しい社会リスク」
第９回_「新しい社会リスク」への対応（社会民主主義）
第10回_「新しい社会リスク」への対応（保守主義）
第11回_「新しい社会リスク」への対応（自由主義）
第12回_「新しい社会リスク」への対応（南欧）
第13回_「新しい社会リスク」への対応（東アジア）
第14回_これからの日本の課題　入門
第15回_これからの日本の課題　発展

【事前・事後の学習の内容】

テキストの予習と授業内容の復習を行うこと。

【評価方法】

授業への取り組み、報告などから、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】

小玉徹『福祉レジームの変容と都市再生』（ミルヴァ書房、2010年）
小玉徹『居住の貧困と「賃貸世代」―国際比較でみる住宅政策』（明石書房、2017年）

【受講生へのコメント】

意欲的に取り組むこと。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1605
科目名 地方財政論研究		単位数 2	担当教員氏名 小川　亮
Course Title Lecture on Local Public Finance		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。

【授業の到達目標】
地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解できる基礎的な力をつけること。

【授業内容・授業計画】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。
（受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。）

第１回_イントロダクション
第２回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Introduction / Definitions－
第３回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Single-Product Clubs－
第４回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－The Tiebout Hypothsis－
第５回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Empirical Tests－
第６回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Introduction / Arguments for Multi-level Government－
第７回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Optimal Structure: Efficiency vs Stability－
第８回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets－
第９回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Evidence on decentralization－
第10回_Ch.20 Fiscal Competition　－Introduction－
第11回_Ch.20 Fiscal Competition　－Tax Competition－
第12回_Ch.20 Fiscal Competition　－Income Distribution－
第13回_Ch.20 Fiscal Competition　－Intergovernmental Transfers－
第14回_Ch.20 Fiscal Competition　－Evidence－
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。
また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。

【評価方法】
報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。

【テキスト又は参考書】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Press

【受講生へのコメント】
指定する文献は、英語で書かれさらに数式モデルの展開が含まれるが、少なくとも大意をつかんでもらうような予習および発表をしてもらえれば、後は担当教員がフォローする。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1606
科目名 地方財政論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 小川　亮
Course Title Seminar on Local Public Finance		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
地方財政に関する問題意識から、関連する最近の先行研究をサーベイする。
さらに、リサーチクエスチョンに対する仮説を構築し、データを用いた実証研究をおこなう。

【授業の到達目標】
地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイができる基礎力を養うこと、
また、実証分析によってオリジナルな知見を習得できる力もつけることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
　調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。

第１回_演習の進め方
第２回_サーベイ方法
第３回_問題意識、課題の鮮明化と仮説構築
第４回_仮説の検証戦略
第５回_実践　問題意識の鮮明化
第６回_実践　課題の鮮明化
第７回_実践　仮説構築
第８回_実践　仮説の検証戦略
第９回_中間発表
第10回_実践　調査分析（前）　―データ収集・データマイニング―
第11回_実践　調査分析（中）　―予備的分析―
第12回_実践　調査分析（後）　―回帰分析―
第13回_最終発表１　　―グループ1の発表―
第14回_最終発表２　　―グループ2の発表―
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること
統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。

【評価方法】
発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容

【テキスト又は参考書】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition)
Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)

【受講生へのコメント】
修士論文（修了論文）に使える調査研究になればよいと思います。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1607
科目名 産業経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Lecture on Industrial Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
規制の経済理論および先進諸国における規制政策について解説する。

【授業の到達目標】
修士論文で規制産業の分析を行おうと考えている人が研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定）
第２回_Introduction to Economic Regulation
第３回_Theory of Natural Monopoly
第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power
第５回_Franchise Bidding and Cable Television
第６回_Public Enterprise
第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications
第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods
第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines
第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas
第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries
第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries
第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries
第14回_Selected Topics on Regulatory Reforms in Japan
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
Mizutani, F. (2012) *Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience*, Cheltenham, UK: Edward Elgar.
Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) *Economics of Regulation and Antitrust*, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.

【受講生へのコメント】
最初はレジュメをまとめるのに苦労するかもしれませんが、そのうちポイントがわかるようになれば余裕が出てくるのではないかと思われます。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1608
科目名 産業経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Seminar on Industrial Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。

【授業の到達目標】
　本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。
（１）専攻する分野を概説することができること。
（２）専攻する分野での基本的な分析手法が理解できること。

【授業内容・授業計画】
各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方
第２回_レポートのまとめ方
第３回_テーマ選択
第４回_先行研究
第５回_現状把握（１）－制度－
第６回_現状把握（２）－データ収集－
第７回_中間レポートの報告
第８回_分析手法
第９回_データ分析（１）－データ整理－
第10回_データ分析（２）－プログラミングとパイロットテスト－
第11回_データ分析（３）－モデル推定－
第12回_分析結果の考察
第13回_課題論文の報告
第14回_発展研究
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
　予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1627
科目名 日本経済史研究		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Lecture on Economic History of Japan		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
主題は日本経済史の講義であるが、本学期は都市経済史の諸課題を取り上げたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。また日本の都市と比較するため、中国の都市も議論の対象としたい。

【授業の到達目標】
経済史の基礎知識を固める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。

第１回_オリエンテーション
第２回_都市史研究の現状
第３回_日本の商業都市：大阪
第４回_中国の商業都市：蘇州
第５回_日本の貿易港市：長崎
第６回_中国の貿易港市：広州
第７回_史料の解析：都市の商業空間
第８回_史料の解析：都市運営
第９回_史料の解析：インフラ整備
第10回_史料の解析：都市と流通
第11回_事例紹介：満州国の「新京」
第12回_事例紹介：植民地時代の台北
第13回_総合議論―新しい方法論―
第14回_総合議論―学位論文の作成に向けて―
第15回_総括
＊講義の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。

【評価方法】
報告（50%）と討論（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
テキスト、特になし。
学術雑誌『都市史研究』各号、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）、『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館、2010～2013年）から都市関係の論文を選んで輪読のテキストとする。

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1628
科目名 日本経済史研究演習		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Seminar on Economic History of Japan		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
経済史研究および修士論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための研究報告を実施する。

【授業の到達目標】
史料の読解力やデータの分析力を高めることと、修士論文の研究を計画通り進めることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。

第１回_オリエンテーション
第２回_研究構想の発表　グループ１
第３回_研究構想の発表　グループ２
第４回_先行研究のまとめ　グループ１
第５回_先行研究のまとめ　グループ２
第６回_史料調査
第７回_史料調査の報告
第８回_史料研究ノート　グループ１
第９回_史料研究ノート　グループ２
第10回_全体議論
第11回_第1次研究発表　グループ１
第12回_第1次研究発表　グループ２
第13回_第2次研究発表　グループ１
第14回_第2次研究発表　グループ２
第15回_総括

＊内容が変更される可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。

【評価方法】
報告（50%）と討論（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
とくになし

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1633
科目名 経済開発論研究		単位数 2	担当教員氏名 森脇　祥太
Course Title Lecture on Development Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
開発途上国の経済発展を数量データを使用して分析することです。

【授業の到達目標】
開発途上国の経済発展要因について数量的に把握し、国際比較を行うことが目標になります。

【授業内容・授業計画】
指定された教科書の内容を報告する形式をとります。全員、教科書の内容を予習して参加する必要があります。

第１回_ガイダンス
第２回_産業構造変化と生産性の上昇　全産業
第３回_産業構造変化と生産性の上昇　製造業
第４回_産業構造変化の理論分析
第５回_社会資本の生産性上昇効果　中国
第６回_社会資本の生産性上昇効果　日本
第７回_工業化と中小企業　中国
第８回_工業化と中小企業　日本
第９回_工業化と中小企業　南米
第10回_工業化と中小企業　アフリカ
第11回_農業の生産関数分析　日本
第12回_農業の生産関数分析　中国
第13回_賃金格差　日本
第14回_賃金格差　中国
第15回_環境効率性の計測　アジア諸国

【事前・事後の学習の内容】
教科書をきちんと読んで予習する必要があります。

【評価方法】
発表60％、レポート40％で評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト　森脇祥太著『経済発展の計量分析』成文堂　2008年

【受講生へのコメント】
開発途上国の経済発展のメカニズムを数量データを使用して分析します。論文の書き方も指導したいと考えています。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1634
科目名 経済開発論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 森脇　祥太
Course Title Seminar on Development Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
修士論文及び修了論文作成のために必要な文献及び論文を読みます。

【授業の到達目標】
開発経済学の最新のトピックスを文献研究を通じて理解することが目標となります。

【授業内容・授業計画】
開発経済学に関する文献を読み、発表する形式をとります。

第１回_ガイダンス
第２回_開発経済学に関する文献研究（1）戦前期日本
第３回_開発経済学に関する文献研究（2）戦前期中国
第４回_開発経済学に関する文献研究（3）戦前期台湾
第５回_開発経済学に関する文献研究（4）戦前期朝鮮
第６回_開発経済学に関する文献研究（5）農業発展
第７回_開発経済学に関する文献研究（6）工業化
第８回_開発経済学に関する文献研究（7）中国経済
第９回_開発経済学に関する文献研究（8）アジア経済
第10回_開発経済学に関する文献研究（9）直接投資
第11回_開発経済学に関する文献研究（10）国際貿易
第12回_開発経済学に関する文献研究（11）環境問題
第13回_開発経済学に関する文献研究（12）財政
第14回_開発経済学に関する文献研究（13）金融
第15回_開発経済学に関する文献研究（14）労働市場

【事前・事後の学習の内容】
指定された文献を読んで演習に参加する必要があります。

【評価方法】
提出されたレポートで採点します。

【テキスト又は参考書】
特にありません。

【受講生へのコメント】
積極的にゼミに参加すること。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1635
科目名 国際協力論研究		単位数 2	担当教員氏名 岩波　由香里
Course Title Lecture on International Cooperation		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。

【授業の到達目標】

現代の国際社会をとりまく様々な問題について、指定された論文を読みながら、原因を追究し、原因から帰結が発生するまでのメカニズムを論理的に説明する力を養う。

【授業内容・授業計画】

第１回_Introduction
第２回_Resource Allocation
第３回_The Commitment Problem
第４回_Alliance
第５回_Audience Costs
第６回_Institutions (Reputation and Monitoring)
第７回_Institutions (Entry)
第８回_Civil War (Initiation)
第９回_Civil War (Termination)
第10回_Terrorism
第11回_Foreign Aid and Civil War
第12回_Democratic Peace
第13回_Regime Transition
第14回_Review　第1－7回
第15回_Review　第8－13回

【事前・事後の学習の内容】

・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。
・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。

【評価方法】

・発表とディスカッションへの参加　40%
・レポート　60%

【テキスト又は参考書】

・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。

【受講生へのコメント】

・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。
・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。
・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1636
科目名 国際協力論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 岩波　由香里
Course Title Seminar on International Cooperation		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。

【授業の到達目標】

講義で学んだ内容を踏まえ、以下の点について考察した上で、レポートを作成する。①どのようなパズルが他に考えられるか、②既存のモデルの欠点や考察されていない点はどこか。

【授業内容・授業計画】

第１回_Introduction
第２回_Resource Allocation
第３回_The Commitment Problem
第４回_Alliance
第５回_Audience Costs
第６回_Institutions (Reputation and Monitoring)
第７回_Institutions (Entry)
第８回_Civil War (Initiation)
第９回_Civil War (Termination)
第10回_Terrorism
第11回_Foreign Aid and Civil War
第12回_Democratic Peace
第13回_Regime Transition
第14回_Review　第1－7回
第15回_Review　第8－13回

【事前・事後の学習の内容】

・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。
・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。

【評価方法】

・発表とディスカッションへの参加　40%
・レポート　60%

【テキスト又は参考書】

・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。

【受講生へのコメント】

・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。
・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。
・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1643
科目名 世界経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Lecture on World Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。

【授業の到達目標】
現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを修論執筆をはじめとする自身の研究に活かすことができる。

【授業内容・授業計画】
まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。
受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。
第１回_経済学と経済政策 ―この学問の成り立ち
第２回_資本制の起源 ―農民層分解と三大階級、さらに現代の経営
第３回_産業革命と社会の変容 ―その何次めかにある今日
第４回_最初のグローバリゼーション ―工業製品輸出の世界化
第５回_中進国のキャッチアップ ―手段としての関税と国民市場
第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 ―間に合った産業化
第７回_貿易思想と産業育成政策 ―WTO創設に伴うこのアプローチの射程
第８回_戦後日本の分断 ―国際競争に曝されているセクターとそれ以外
第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 ―線型発展史観の動揺
第10回_世界システム論の貢献 ―基軸経済論との対比
第11回_残された社会主義諸国 ―特異な諸類型
第12回_冷戦の終結とグローバリゼーション ―勢力圏分割の終焉
第13回_雁行形態論とPLC仮説 ―それらの前提の溶解
第14回_国際通貨システムの変容 ―2つの本位制の解体
第15回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 ―ドイツ関税同盟からEU、その先へ

【事前・事後の学習の内容】
テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。

【評価方法】
平常点によって評価する。

【テキスト又は参考書】
拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）

【受講生へのコメント】
問題意識をもって参加されたい。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1644
科目名 世界経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Seminar on World Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
　世界経済の動態を捉え、その中での多国籍企業ならびにグローバル企業の到達段階について解明する。

【授業の到達目標】
　現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを修論執筆をはじめとする自身の研究に活かすことができる。

【授業内容・授業計画】
　多国籍企業の出現、グローバル企業の登場を焦点とする現代世界経済の把握を行う。
　授業は、随時受講生の研究発表を行うとともに、テキストとして関連するテーマの英書を選定し輪読を行う。留学生主体の場合には、日本語文献をもって代える場合もある。

第１回_自己紹介と全体のガイダンス
第２回_各自の卒論と研究計画の概要の報告
第３回_テキストの輪読①
第４回_テキストの輪読②
第５回_テキストの輪読③
第６回_テキストの輪読④
第７回_テキストの輪読⑤
第８回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介①
第９回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介②
第10回_テキストの輪読⑥
第11回_テキストの輪読⑦
第12回_テキストの輪読⑧
第13回_テキストの輪読⑨
第14回_総括の報告①
第15回_総括の報告②

【事前・事後の学習の内容】
　各自が修論執筆に勤しむことはもとよりであるが、本演習を通じて極力視野を広げることを心がけられたい。

【評価方法】
　演習の平常点を5割、論文の執筆状況を5割として評価する。

【テキスト又は参考書】
　開講時に指示する。

【受講生へのコメント】
　問題意識をもって参加されたい。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1609
科目名 ミクロ経済学研究		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Lecture on Microeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。

【授業の到達目標】
各論文で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。

【授業内容・授業計画】
NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）で取り上げられた論文を講義形式で紹介する。

第１回_ガイダンス
第２回_第1論文（記事例：Recent Trends in Intergenerational Mobility）
第３回_第2論文（記事例：Student Absences, Instructional Time, and Academic Achievement）
第４回_第3論文（記事例：Birth Order and Student Performance）
第５回_第4論文（記事例：Juvenile Incarceration and Later Criminal Activity）
第６回_第5論文（記事例：Dynamic Aspects of Family Transfers）
第７回_第6論文（記事例：Letter Grading Government Efficiency）
第８回_第7論文（記事例：Hiring Decisions for High-Value Employees: Evidence from March Madness Performance）
第９回_第8論文（記事例：Bank Performance in 1998 Explains Performance during the Recent Crisis）
第10回_第9論文（記事例：African Export Successes）
第11回_第10論文（記事例：Measuring the Long-Term Impacts of Teachers）
第12回_第11論文（記事例：Agglomeration of Bankruptcy）
第13回_第12論文（記事例：Earners' Gender Identity and Relative Income within Households）
第14回_第13論文（Parsing the Evidence of the Financial Crisis 2007-9）
第15回_第14論文（Who Creates Jobs?）

【事前・事後の学習の内容】
講義前に、NBER Digestの記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。講義後は、関連する統計について調べる。

【評価方法】
宿題及び試験により評価する。

【テキスト又は参考書】
大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）

【受講生へのコメント】
大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1610
科目名 ミクロ経済学研究演習		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Seminar on Microeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。また、それを参考に、研究計画を立ててみる。

【授業の到達目標】
専門論文で何が行われているかを把握できる様になる。また、それを参考に、どの様な研究が可能そうか、検討できる様になる。様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについてもさらに知る。

【授業内容・授業計画】
扱う論文については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、前回同様の形式を取った際には、American Economic Journal（以下AEJ）、American Economic Review（同AER）からの希望を募り、以下の論文を扱った。

第１回_ガイダンス
第２回_第1論文（参考例：Van Wincoop (2013) “International Contagion through Leveraged Financial Institutions,” AEJ: Macroeconomics）報告
第３回_第1論文ディスカッション
第４回_第2論文（参考例：Wang (2013) “Marriage Networks, Nepotism, and Labor Market Outcomes in China,” AEJ: Applied Economics（以下AE））報告
第５回_第2論文ディスカッション
第６回_第3論文（参考例：Lockwood and Porcelli (2013) “Incentive Schemes for Local Government: Theory and Evidence from Comprehensive Performance Assessment in England,” AEJ: Economic Policy（以下EP））報告
第７回_第3論文ディスカッション
第８回_第4論文（参考例：Chodorow-Reich et al. (2012) “Does State Fiscal Relief during Recessions Increase Employment? Evidence from the American Recovery and Reinvestment Act,” AEJ: EP）報告
第９回_第4論文ディスカッション
第10回_第5論文（参考例：Lindo et al. (2012) “Are Big-Time Sports a Threat to Student Achievement?” AEJ: AE）報告
第11回_第5論文ディスカッション
第12回_第6論文（参考例：Gagnepain et al. (2013) “The Cost of Contract Renegotiation: Evidence from the Local Public Sector,” AER.）報告
第13回_第6論文ディスカッション
第14回_模擬研究計画報告
第15回_模擬研究計画ディスカッション

【事前・事後の学習の内容】
報告者は、報告回で出た疑問点について、ディスカッション回までに調べておく。報告者以外も、アブストラクト・イントロダクションには目を通し、疑問点を整理しておく。また、ディスカッション回までに、報告論文を参考にした模擬研究計画を検討しておく。

【評価方法】
自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメント、また、最終的に提出する模擬研究計画により評価する。

【テキスト又は参考書】
大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）

【受講生へのコメント】
大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1619
科目名 マクロ経済動学研究		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Lecture on Dynamic Macroeconomics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論を講義する。

【授業の到達目標】
ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論を理解することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
テキストを利用しながらマクロ経済動学の理論を講義する。

第１回_ガイダンス
第２回_従来の経済成長論　1－Solowモデル－
第３回_従来の経済成長論　2－技術進歩と成長－
第４回_合理的期待　1－Muthモデル－
第５回_合理的期待　2－Caganモデル－
第６回_ラムゼーモデル　1－最大値原理－
第７回_ラムゼーモデル　2－市場均衡－
第８回_ラムゼーモデル　3－政府支出－
第９回_世代重複モデル　1－2期間モデル－
第10回_世代重複モデル　2－Diamondモデル－
第11回_世代重複モデル　3－年金－
第12回_内生的成長モデル　1－AKモデル－
第13回_内生的成長モデル　2－Romerモデル－
第14回_内生的成長モデル　3－内生的な生産性増加－
第15回_その他の話題

【事前・事後の学習の内容】
講義前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習する必要がある。講義後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。

【評価方法】
平常点あるいはテストで評価する。

【テキスト又は参考書】
Benassy(2011)*Macroeconomic Theory,* Oxford

【受講生へのコメント】
マクロ分析1およびマクロ分析2を受講しておくことが望ましい。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1620
科目名 マクロ経済動学研究演習		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Seminar on Dynamic Macroeconomics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論を理解する。

【授業の到達目標】
ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論を理解することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
テキストを利用しながらマクロ経済動学の理論の報告および討論を行う。また、練習問題を解く。

第１回_ガイダンス
第２回_従来の経済成長論　1－Solowモデル－
第３回_従来の経済成長論　2－技術進歩と成長－
第４回_合理的期待　1－Muthモデル－
第５回_合理的期待　2－Caganモデル－
第６回_ラムゼーモデル　1－最大値原理－
第７回_ラムゼーモデル　2－市場均衡－
第８回_ラムゼーモデル　3－政府支出－
第９回_世代重複モデル　1－2期間モデル－
第10回_世代重複モデル　2－Diamondモデル－
第11回_世代重複モデル　3－年金－
第12回_内生的成長モデル　1－AKモデル－
第13回_内生的成長モデル　2－Romerモデル－
第14回_内生的成長モデル　3－内生的な生産性増加－
第15回_その他の話題

【事前・事後の学習の内容】
演習前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習し報告の準備をする。演習後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。

【評価方法】
平常点あるいはテストで評価する。

【テキスト又は参考書】
Benassy(2011)*Macroeconomic Theory*, Oxford

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1625
科目名 数量経済分析論研究		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹
Course Title Lecture on Quantitative Analyses of Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
理論分析と統計分析をいくつか取り上げながら学習し、それらの行い方を理解できるようになる。

【授業の到達目標】
研究論文をベースに具体的な分析を学習しながら、経済理論と実証分析への理解を深めていく。今回は、機械化と経済成長、そして、経済発展に関するいくつかのテーマを取り上げる。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。

第１回_イントロダクション（ガイダンス）
第２回_生産における機械化
第３回_機械化と経済成長
第４回_機械化と賃金
第５回_機械化と雇用
第６回_統計分析（回帰分析）の復習
第７回_経済発展と所得格差
第８回_経済発展と教育
第９回_経済発展と金融
第10回_経済発展と出生率（一般的考察）
第11回_経済発展と出生率：所得格差を絡めて
第12回_経済発展と出生率：死亡率を絡めて
第13回_経済発展と出生率：ジェンダーギャップを絡めて
第14回_理論分析（補足）
第15回_統計分析（補足）

【事前・事後の学習の内容】
講義時に学んだ研究の進め方をもとに、各自、経済分析の行い方への理解を深めること。

【評価方法】
経済分析を行う能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1626
科目名 数量経済分析論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹
Course Title Seminar on Quantitative Analyses of Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
自らのテーマ選定のもと、既存の理論分析または統計分析を報告する。

【授業の到達目標】
既存の研究論文をもとに具体的な分析を各自報告し、経済理論と実証分析への理解を深めていく。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。

第１回_イントロダクション（ガイダンス）
第２回_テーマ選定
第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察
第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討
第５回_報告から必要となった理論分析の学習
第６回_報告から必要となった統計分析の学習
第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講）
第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察
第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討
第10回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討
第11回_報告から必要となった理論分析の復習
第12回_報告から必要となった統計分析の復習
第13回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す）
第14回_これまでの発表の中から選定し再発表：理論的考察
第15回_再発表：実証的考察

【事前・事後の学習の内容】
講義をもとに、各自研究を進め、理論分析と統計分析を身に着けること。

【評価方法】
経済学における分析能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目№.	EMMIJ1629
科目名 経済学説史研究		単位数 2	担当教員氏名 若森　みどり
Course Title Lecture on History of Political Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
経済学説史研究の方法を習得し、市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する知見を吸収し、自らの研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
今年度は、『市民革命と産業革命』『資本の時代』『帝国の時代』『20世紀の歴史：極端な時代』などを著した世界でもっとも著名なイギリスの歴史家エリック・ホブズボームの最晩年の著作を読み解く。主たるテキストの各章や担当箇所を精読したうえで、レジュメを作成・報告し、それをもとにディスカッションや研究指導を行う。

第１回_講義の進め方（テキストを見ながら、担当者を決定）
第２回_解説①エリック・ホブズボームの生涯と著作－
第３回_社会主義・共産主義の凋落とマルクスの復活-、解説②21世紀世界をどのように変えるか
第４回_マルクス、エンゲルとマルクス以前の社会主義-学史的整理-
第５回_マルクス、エンゲルスと政治-革命の展望と未来についてのヴィジョン-
第６回_『イングランドにおける労働者階級の状態』と_『共産党宣言』について-時代・主張・分析・予見・はずれた予見-
第７回_『経済学批判要綱』の「発見」とマルクスによる資本主義以前の諸形態の分析
第８回マルクスとエンゲルスの諸著作の遍歴-第一次大戦以前、両大戦間期、第二次大戦後-
第９回_マルクス主義とその影響①-1880年から1914年まで-
第10回_マルクス主義とその影響②-反ファシズムの時代（1929年から1945年まで）-
第11回_アントニオ・グラムとその影響-イタリア史、ヘゲモニー論、グラムシの受容
第12回_マルクス主義の影響力-1945年から1983年まで-
第13回_マルクス主義の後退期-1983年から2000年まで-
第15回_マルクスと労働者階級-長い世紀-、総括

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること、以上を求める。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時のディスカッション、報告レジュメ等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストとして次のものを指定する。エリック・ホブズボーム『いかに世界を変革するか：マルクスとマルクス主義の200年』、作品社。その他の輪読する資料は適宜指示する。

【受講生へのコメント】
初回に担当箇所を決める際にテキストを持ってくること。レジュメ作成は苦労するかもしれませんが、つくることを通してポイントがわかります。それは、ディスカッションを通じて内容理解を深めるのに役立ち、論文の構想や執筆時の基礎作業の能力ともなります。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1630
科目名 経済学説史研究演習		単位数 2	担当教員氏名 若森　みどり
Course Title Seminar on History of Political Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
経済学説史研究の方法を習得し、市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する知見を吸収し、自らの研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方
第２回_レポートのまとめ方
第３回_テーマ選択
第４回_先行研究の各報告（１）、コメント
第５回_先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考
第６回_テーマ設定（１）－先行研究の分類、先行研究＋α、コメント－
第７回_中間レポートの各報告（１）、コメント
第８回_中間レポートの各報告（２）、補足、コメント、再考
第９回_先行研究の位置づけ、見直し、補足（１）－参考文献の整理－
第10回_複数の重要先行研究の各報告（１）、コメント
第11回_複数の先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考
第12回_課題論文の中間発表（１）コメント
第13回_課題論文の中間発表（２）補足、コメント、再考
第14回_発展研究
第15回_まとめ、課題論文の提出第

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
各自の研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。

授業形態	講義	科目No.	EMMIJ1633
科目名 社会思想史研究		単位数 2	担当教員氏名 中村　健吾
Course Title Lecture on History of Social Thought		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。

【授業の到達目標】

授業では、マーストリヒト条約（1993年）で導入されたEUシティズンシップ、リスボン条約（2009年）によって法的拘束力を得たEU基本権憲章、2003年の長期居住者指令、2010年の難民指令などを見ていくことになる。2015年における難民の受け入れとパリでのテロ事件を受け、一定のバックラッシュを示しながらも、EU加盟国はいまや、EU市民だけでなく域外の国民にも、居住期間の長さに応じた市民としての地位を保障する方向へと向かっている。

【授業内容・授業計画】

まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。

第１回 イントロダクション：問題の所在
第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解
第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意
第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い
第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏
第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討
第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討
第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討
第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討
第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討
第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討
第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ
第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ
第14回 EUの難民指令の検討
第15回 回顧と展望

【事前・事後の学習の内容】

受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。

【評価方法】

授業中の報告と学期末の研究報告書とにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。
テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。

【受講生へのコメント】

移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。

授業形態	演習	科目No.	EMMIJ1634
科目名 社会思想史研究演習		単位数 2	担当教員氏名 中村　健吾
Course Title Seminar on History of Social Thought		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。

【授業の到達目標】

この演習では、EUによる共通民政策とEU加盟国における移民・難民の受け入れの現状を理解するにとどまらず、そうした現状を批判的に評価するための規範的な視座を獲得することを目標にすえる。

【授業内容・授業計画】

まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。

第１回 イントロダクション：問題の所在
第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解
第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意
第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い
第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏
第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討
第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討
第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討
第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討
第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討
第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討
第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ
第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ
第14回 EUの難民指令の検討
第15回 回顧と展望

【事前・事後の学習の内容】

受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。

【評価方法】

授業中の報告と学期末の研究報告書とにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。
テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。

【受講生へのコメント】

移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1603
科目名 労働経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Lecture on Labour Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして講義を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論について理解することが求められることから、これらについても講義する。

【授業の到達目標】
本講義では、労働市場構造分析や社会的排除／包摂論について十分な理解をすることと、問題の分析や解決を図る能力を養うことを到達目標とする。
⑴専攻する分野を概説することができること。
⑵専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。
⑶専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。

【授業内容・授業計画】
欧米諸国の実態分析や政策理論についての研究も視野に入れ、他方で日本の実証的研究の成果を網羅するように心がけたい。また、毎回の講義では受講生の積極的な発言を引き出す形で授業を進めていく。
また、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。
第１回　授業の進め方
第２回　社会的排除／包摂論（１）―議論の歴史的発展―
第３回　社会的排除／包摂論（２）―実態把握の分析理論と政策類型―
第４回　社会的排除／包摂論（３）―EUの政策―
第５回　最低所得保障とベーシックインカム論（１）
第６回　最低所得保障とベーシックインカム論（２）
第７回　最低所得保障とベーシックインカム論（３）
第８回　アクティベーションと中間的労働市場（１）
第９回　アクティベーションと中間的労働市場（２）
第10回　個別的支援とまちづくり（１）
第11回　個別的支援とまちづくり（２）
第12回　日本における生活困窮者支援事業の展開
第13回　社会的企業と社会的連帯経済（１）
第14回　社会的企業と社会的連帯経済（２）
第15回　日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて
レポート提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
講義時の質問、報告、レポート等を総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
その都度、提示します。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1604
科目名 労働経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Seminar on Labour Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして演習を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論を取り上げた報告・討論を行い、各受講生の研究課題に関しても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
本演習では、労働市場構造分析や社会的排除／包摂論について十分な理解をすることと、問題の分析や解決を図る能力を養うことを到達目標とする。また、修士論文・修了論文執筆に必要な知見を習得させる。
⑴専攻する分野を概説することができること。
⑵専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。
⑶専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。

【授業内容・授業計画】
欧米諸国の実態分析や政策理論についての研究も視野に入れ、他方で日本の実証的研究の成果を網羅するように心がけたい。また、毎回の演習では受講生の積極的な発言を引き出す形で授業を進めていく。
また、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。

第１回　演習の進め方
第２回　社会的排除／包摂論（１）―議論の歴史的発展―
第３回　社会的排除／包摂論（２）―実態把握の分析理論と政策類型―
第４回　社会的排除／包摂論（３）―EUの政策―
第５回　最低所得保障とベーシックインカム論（１）
第６回　最低所得保障とベーシックインカム論（２）
第７回　最低所得保障とベーシックインカム論（３）
第８回　アクティベーションと中間的労働市場（１）
第９回　アクティベーションと中間的労働市場（２）
第10回　個別的支援とまちづくり（１）
第11回　個別的支援とまちづくり（２）
第12回　日本における生活困窮者支援事業の展開
第13回　社会的企業と社会的連帯経済（１）
第14回　社会的企業と社会的連帯経済（２）
第15回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて
レポート提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
演習時の討論、報告、レポート等を総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
その都度、提示します。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1605
科目名 比較労使関係論研究		単位数 2	担当教員氏名 チャールズ・ウェザーズ
Course Title Lecture on Comparative Industrial Relations and Political Economic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度を勉強します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。

【授業の到達目標】
日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。

【授業内容・授業計画】
全ての参加者に参考にする資料について報告してもらい、それに基づいてディスカッションをします。また、修士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。
以下の15回の計画はサンプルコースです。参加者それぞれの興味やニーズによって調整します。

第１回_イントロダクション
第２回_日本の労使関係・雇用制度
第３回_戦後の労使関係の形成
第４回_労使関係制度の発展
第５回_春闘・賃金制度
第６回_非正規労働
第７回_均等法と女性労働問題
第８回_コミュニティユニオン及びNPO
第９回_若者と教育制度
第10回_アベノミクスと労働
第11回_北欧モデル
第12回_ドイツの労働政策
第13回_アメリカモデルと雇用制度
第14回_現在の課題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回、資料を読み、ディスカッションの準備をしてもらいます。また、自分の研究プロジェクトについて毎回報告してもらいます。

【評価方法】
参加者の授業への準備及び熱心な討論。

【テキスト又は参考書】
第一回目の授業で参考となる資料を提示します。

【受講生へのコメント】
現在、私は主に女性・非正規労働問題、公共部門労働問題について日米比較研究を行っていますので、政治経済や女性・ワーキングプア問題について関心がある院生に適すると思います。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1606
科目名 比較労使関係論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 チャールズ・ウェザーズ
Course Title Seminar on Comparative Industrial Relations and Political Economic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。

【授業の到達目標】
日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。また、資料検索および研究論文を作成するスキルを開発します。

【授業内容・授業計画】
参加者の研究について報告してもらいます。また、修士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。

第１回_イントロダクション
第２回_日本の労使関係・雇用制度
第３回_戦後の労使関係の形成
第４回_労使関係制度の発展
第５回_春闘・賃金制度
第６回_非正規労働
第７回_均等法と女性労働問題
第８回_コミュニティユニオン及びNPO
第９回_若者と教育制度
第10回_アベノミクスと労働
第11回_北欧モデル
第12回_ドイツの労働政策
第13回_アメリカモデルと雇用制度
第14回_現在の課題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
簡単な研究論文を作成するため、自立研究が求められます。

【評価方法】
参加者の授業でのディスカッション、資料についての報告、および研究論文。

【テキスト又は参考書】
参加者の研究課題に沿った内容の資料を提示します。

【受講生へのコメント】
研究スキルの向を狙います。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1615
科目名 財政政策論研究		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Lecture on Public-Finance Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
現代の日本財政政策の基礎理論および政策議論についてレクチャーを行う。その際に気を付けることは財政理論、歴史、政策論をできるだけ偏りがないように講義をすることである。また、受講生が単に一方的に聞くだけではなく、講義の内容を受けてのやり取りもできるように心がける。

【授業の到達目標】
修士論文の執筆レベルの知識の習得や議論のレベルまで引き上げることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
毎回の講義においてレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。またレジュメおよび資料は事前に配布する。

第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス
第２回_財政学という学問の特徴・本質は何か
第３回_公共財の理論とその批判
第４回_福祉国家論について
第５回_所得再分配の理論と実際
第６回_乗数理論とその現実
第７回_高度成長期の財政史
第８回_オイルショックから臨調行革までの財政史
第９回_バブル経済とは何か
第10回_小泉改革とは何だったのか
第11回_政権交代以降の財政の状況
第12回_土建国家という日本の公共事業
第13回_生活保障機能の変化とセーフティネット
第14回_政府間財政関係について
第15回_全体を振り返っての総まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の講義の最後に次回のレクチャーについてのあらすじと参考文献を提示する。受講者は事前に予習をすることが好ましい。また、毎回配布するレジュメと資料を用いて復習することも理解を深めるにあたっては好ましい。

【評価方法】
平常点および期末レポートにより評価を行う。

【テキスト又は参考書】
特になし

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1616
科目名 財政政策論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Seminar on Public-Finance Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本演習では財政にかかわる諸制度、とりわけ社会保障制度と他の諸制度との有機的な関係に着目しながら、今後の財政制度の在り方について受講者と議論を行う。

【授業の到達目標】
租税政策、社会保障政策、地方分権などが有機的にかかわって財政政策をトータルで考えることができる思考能力の醸成を目的とする。

【授業内容・授業計画】
関連する論文・著作を受講者が輪読・報告を行い、それをもとに全受講者間で議論を行う。

第１回_本演習の狙いの説明とガイダンス
第２回_年金と日本経済
第３回_医療と日本経済
第４回_介護と日本経済
第５回_社会福祉と日本経済
第６回_生活扶助と日本経済
第７回_労働政策と日本経済
第８回_社会保障とインフォーマルセクター
第９回_社会保障制度と租税構造
第10回_社会保障制度と国民負担
第11回_社会保障制度の財源問題
第12回_社会保障制度と消費税
第13回_社会保障制度と租税特別措置
第14回_社会保障制度と地方分権
第15回_これまでを振り返っての総まとめ

【事前・事後の学習の内容】
報告者はもちろんのこと、受講者全員が事前の学習を行い、積極的に議論に参加することが求められる。また、授業後の復習を行うことにより理解度を高めるだけではなく、その後の議論のためにも役立つことを認識してもらいたい。

【評価方法】
平常点および期末レポートにより評価を行う。

【テキスト又は参考書】
適宜、授業中に指示する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1621
科目名 流通経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Lecture on Distribution Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
流通経済論に関係した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文をもとに議論を行なう。

【授業の到達目標】
流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけること

【授業内容・授業計画】
取上げた論文の解説を行なう

第１回_講義の進め方
第２回_垂直構造
第３回_水平的差別化
第４回_垂直的差別化
第５回_外部性
第６回_エージェンシー
第７回_複数のエージェント
第８回_コモンエージェンシー
第９回_デリゲーション
第10回_アドバースセレクション
第11回_メカニズムデザイン
第12回_小売市場における計量分析
第13回_流通チャネルにおける計量分析
第14回_発展学習
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。

【評価方法】
期末レポートに基づく

【テキスト又は参考書】
テキストは特になし、参考書は適宜指示します。

【受講生へのコメント】
大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1622
科目名 流通経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Seminar on Distribution Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
流通経済論に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行なった上で、実践的に検証する。

【授業の到達目標】
流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけること

【授業内容・授業計画】
指導教員が司会となり、取上げた論文について演習参加者全員でディスカッションを行なう

第１回_演習の進め方
第２回_垂直構造
第３回_水平的差別化
第４回_垂直的差別化
第５回_外部性
第６回_エージェンシー
第７回_複数のエージェント
第８回_コモンエージェンシー
第９回_デリゲーション
第10回_アドバースセレクション
第11回_メカニズムデザイン
第12回_小売市場における計量分析
第13回_流通チャネルにおける計量分析
第14回_発展学習
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。

【評価方法】
期末レポートに基づく

【テキスト又は参考書】
テキストは特になし。参考書は適宜指示します。

【受講生へのコメント】
大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。

授業形態	講義	科目No.	EMACJ1623
科目名 金融経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Lecture on Monetary Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。

【授業の到達目標】
金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることを前提に授業を行います。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していることを前提に授業を行います。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであることを前提にします。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。

第１回_ガイダンス
第２回_金融契約理論(イントロダクション)
第３回_金融契約理論(サーベイ)
第４回_金融契約理論(基本モデル)
第５回_金融契約理論(拡張モデル)
第６回_金融契約理論(インプリケーション)
第７回_金融契約理論(結論)
第８回_D&Mモデル(イントロダクション)
第９回_D&Mモデル(サーベイ)
第10回_D&Mモデル(基本モデル)
第11回_D&Mモデル(拡張モデル)
第12回_D&Mモデル(インプリケーション)
第13回_D&Mモデル(結論)
第14回_D&Mモデルの批判的検討と分析の拡張
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。
前回の授業内容を復習しておくこと。

【評価方法】
平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。

【受講生へのコメント】
十分な予習・復習時間を確保してください。

授業形態	演習	科目No.	EMACJ1624
科目名 金融経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Seminar on Monetary Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。

【授業の到達目標】
金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることを前提に授業を行います。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していることを前提に授業を行います。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであることを前提にします。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。

第１回_ガイダンス
第２回_金融契約の応用(イントロダクション)
第３回_金融契約の応用(サーベイ)
第４回_金融契約の応用(基本モデル)
第５回_金融契約の応用(拡張モデル)
第６回_金融契約の応用(インプリケーション)
第７回_金融契約の応用(結論)
第８回_B&Rモデル(イントロダクション)
第９回_B&Rモデル(サーベイ)
第10回_B&Rモデル(基本モデル)
第11回_B&Rモデル(拡張モデル)
第12回_B&Rモデル(インプリケーション)
第13回_B&Rモデル(結論)
第14回_B&Rモデルの批判的検討と分析の拡張
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。
前回の授業内容を復習しておくこと。

【評価方法】
平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。

【受講生へのコメント】
毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1611
科目名 日本経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Lecture on Japanese Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討したい。

【授業の到達目標】
日本経済が現在抱える問題への取り組みを深める。

【授業内容・授業計画】
講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_労働問題－若年者・高齢者
第３回_労働問題－女性
第４回_少子化問題－要因
第５回_少子化問題－政策
第６回_貯蓄行動・資産選択
第７回_所得格差
第８回_社会保障－年金
第９回_社会保障－医療・介護
第10回_実証分析－データ
第11回_実証分析－基本的操作
第12回_実証分析－仮説設定
第13回_実証分析－仮説検証
第14回_実証分析－レポート作成に向けて
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】
授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、特になし。

【受講生へのコメント】
ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1612
科目名 日本経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Seminar on Japanese Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討したい。

【授業の到達目標】
家計行動の側面から捉えた日本経済の課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_労働問題－若年者・高齢者
第３回_労働問題－女性
第４回_少子化問題－要因
第５回_少子化問題－政策
第６回_貯蓄行動・資産選択
第７回_所得格差
第８回_社会保障－年金
第９回_社会保障－医療・介護
第10回_実証分析－データ
第11回_実証分析－基本的操作
第12回_実証分析－仮説設定
第13回_実証分析－仮説検証
第14回_実証分析－レポート作成に向けて
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】
授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、特になし。

【受講生へのコメント】
ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1617
科目名 東アジア経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Lecture on A Study on East Asian Economies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。

【授業の到達目標】
本講義では、東アジア経済の分析理論に関する基本的知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考える能力を身につけることを達成目標とする。

【授業内容・授業計画】
本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論
第３回_低開発の発展
第４回_世界システムと不等価交換
第５回_後発性利益と後発性不利益
第６回_新国際分業
第７回_企業内国際分業
第８回_キャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済
第10回_開発独裁
第11回_経済援助と経済制裁
第12回_経済のグローバル化と通貨危機
第13回_経済協力と自由貿易協定
第14回_経済ナショナリズムと保護主義
第15回_まとめ：レポート作成・提出

【事前・事後の学習の内容】
講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。

【評価方法】
講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年近刊

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にしておくこと。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1618
科目名 東アジア経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Seminar on A Study on East Asian Economies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。

【授業の到達目標】
本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う基本的能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。
（１）東アジア経済について概説する能力があること。
（２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。
（３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。
　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。
第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。
第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。
第11回から第15回、院生による研究発表と討論。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論
第３回_低開発の発展
第４回_世界システムと不等価交換
第５回_後発性利益と後発性不利益
第６回_新国際分業
第７回_企業内国際分業
第８回_キャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済
第10回_開発独裁
第11回_経済援助と経済制裁
第12回_経済のグローバル化と通貨危機
第13回_経済協力と自由貿易協定
第14回_経済ナショナリズムと保護主義
第15回_まとめ：レポート作成・提出

【事前・事後の学習の内容】
講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。

【評価方法】
講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年近刊

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にしておくこと。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1619
科目名 東南アジア経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Lecture on Southeast Asian Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東南アジア経済を政治制度・経済制度・文化・社会といった多角的な視点から検討する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題やジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。

【授業の到達目標】
東南アジア経済に関する理解を深め、研究課題の発見を到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
授業の前半は講義を行い、後半は講義の中で取り上げたトピックに関する議論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー
第３回_東南アジア経済と教育・社会保障
第４回_移行経済国
第５回_農村経済
第６回_都市化とインフォーマルセクター
第７回_東南アジアの文化とビジネス
第８回_東南アジアの企業集団
第９回_アセアン経済共同体
第10回_インフラ開発
第11回_金融システム
第12回_中所得国化と経済格差
第13回_ジェンダー
第14回_環境問題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
講義時に紹介する論文を読んでおくこと。

【評価方法】
学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。

【テキスト又は参考書】
教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。

【受講生へのコメント】
文献を読み込む時間を十分にとってください。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1620
科目名 東南アジア経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Seminar on Southeast Asian Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、修士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。

【授業の到達目標】
文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
毎回、論文の輪読と議論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー
第３回_東南アジア経済と教育・社会保障
第４回_移行経済国
第５回_農村経済
第６回_都市化とインフォーマルセクター
第７回_東南アジアの文化とビジネス
第８回_東南アジアの企業集団
第９回_アセアン経済共同体
第10回_インフラ開発
第11回_金融システム
第12回_中所得国化と経済格差
第13回_ジェンダー
第14回_環境問題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
講義時に紹介する論文を読んでおくこと。

【評価方法】
学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。

【テキスト又は参考書】
教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。

【受講生へのコメント】
文献を読み込む時間を十分にとってください。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1629
科目名 アジア経済史研究		単位数 2	担当教員氏名 脇村　孝平
Course Title Lecture on Asian Economic History		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー

本講義は、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることを目標とする。すなわち、19世紀半ば以降現代までの、アジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになろう。

【授業の到達目標】

本講義では、貿易史の動向を概観することによって、同時期のアジア経済の変遷の全体像を垣間見ることを意図している。多くの場合、貿易構造の変化は、背後に控える産業構造の変化、あるいは経済に関わる制度の変化、さらには国家による政策の変化などを映し出している。

【授業内容・授業計画】

毎回、パワーポイントによる講義とし、またその全データをプリントにして配る予定である。

第1回　はじめに－貿易史の意義
第2回　海禁と互市
第3回　アヘン貿易
第4回　開国と不平等条約
第5回　居留地貿易
第6回　工業化の開始
第7回　綿業基軸体制
第8回　アジア間貿易の形成
第9回　植民地の位置づけ
第10回　両大戦間期のアジア間貿易
第11回　戦時期とアジア間貿易の崩壊
第12回　戦後と冷戦体制
第13回　アジア間貿易の復活
第13回　アジア間貿易の復活
第14回　「東アジアの奇跡」
第15回　おわりに－未来に向けて

【事前・事後の学習の内容】

この講義と対になっている演習において、毎回、課題を出して、それが事前学習および事後学習となる。

【評価方法】

以下の三点で評価する。
1. 平常点
2. 授業への取り組み
3. 期末の報告書の評価

【テキスト又は参考書】

特になし。

【受講生へのコメント】

21世紀の世界経済の発展において、アジア経済が果たす役割は極めて大きい。その真の意味を考えるためにも、時計の針を約百五十年前に巻き戻してみましょう。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1630
科目名 アジア経済史研究演習		単位数 2	担当教員氏名 脇村　孝平
Course Title Seminar on Asian Economic History		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー

本講義は、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることを目標とする。すなわち、19世紀半ば以降現代までの、アジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになろう。

【授業の到達目標】

受講生には、毎回、指定された文献を事前に読むことを課すが、それに基づいて、演習では、主要な論点に関わる討議を行ってもらう。

【授業内容・授業計画】

受講生には、毎回、事前にテキストの読んでくるべき箇所を示し、それを基にした発表を行ってもらう。

第１回_オリエンテーション
第２回_第1章「前工業化経済と産業革命」
第３回_第2章「前工業化イギリスの高賃金経済」
第４回_第3章「農業革命」
第５回_第4章「低価格エネルギー経済」
第６回_第5章「なぜイギリスが成功したのか」
第７回_第6章「なぜ産業革命はイギリスで起きたのか」
第８回_第7章「蒸気機関」
第９回_第8章「綿　業」
第10回_第9章「コークス溶鉱法」
第11回_第10章「発明家、啓蒙主義そして人的資本」
第12回_第11章「産業革命から近代経済成長へ 」
第13回_総合討論（1）
第14回_総合討論（2）
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

毎回、課題を出して、それが事前学習および事後学習となる。

【評価方法】

以下の三点で評価する。
1. 平常点
2. 授業への取り組み
3. 期末の報告書の評価

【テキスト又は参考書】

R.C.アレン 著（眞嶋史叙・中野 忠・安元 稔・湯沢 威 訳）『世界史のなかの産業革命』名古屋大学出版会、2017年。

【受講生へのコメント】

21世紀の世界経済の発展において、アジア経済が果たす役割は極めて大きい。その真の意味を考えるためにも、時計の針を約百五十年前に巻き戻してみましょう。

授業形態	講義	科目No.	EMGRJ1637
科目名 国際経済論研究		単位数 2	担当教員氏名 久保　彰宏
Course Title Lecture on International Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。

【授業の到達目標】
経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深めることが最大の目標となる。
（貿易や国際金融は演習で取り扱う）

【授業内容・授業計画】
分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。

第１回_イントロダクション
第２回_国際貿易論
第３回_ヘクシャー・オリーンモデル
第４回_貿易政策
第５回_WTO
第６回_国際収支
第７回_マーシャル・ラナー安定条件
第８回_オープンマクロ分析
第９回_バラッサ・サミュエルソン効果
第10回_為替レート政策
第11回_課題報告　農業
第12回_課題報告　教育
第13回_課題報告　労働
第14回_課題報告　工業
第15回_まとめのディスカッション

【事前・事後の学習の内容】
テキストの予習と報告内容の復習を行う。

【評価方法】
分担報告。

【テキスト又は参考書】
講義中に指示する。

【受講生へのコメント】
受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。

授業形態	演習	科目No.	EMGRJ1638
科目名 国際経済論研究演習		単位数 2	担当教員氏名 久保　彰宏
Course Title Seminar on International Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
発展途上国経済に関する文献を読む。

【授業の到達目標】
大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得る。

【授業内容・授業計画】
文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_不平等
第３回_貧困
第４回_人口
第５回_高齢化
第６回_教育
第７回_健康
第８回_農業発展
第９回_ミクロ経済学的視点
第10回_国際貿易
第11回_貿易理論
第12回_国際収支
第13回_経済危機
第14回_資本移動
第15回_開発援助

【事前・事後の学習の内容】
事前に毎回の内容を読み終えておくことと事後にサマリーの作成が求められる。

【評価方法】
分担報告のレポート

【テキスト又は参考書】
演習中に指示する。

【受講生へのコメント】
受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。

授業形態	演習	科目No.	EMRGJ1501
科目名 前期研究指導1		単位数 4	担当教員氏名 別紙1参照
Course Title Research Guidance for the Master's Course 1		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
修士論文作成に必要な研究手法を習得させる。

【授業の到達目標】
当該分野の必読文献を読破し、研究に必要な諸概念を十分に理解する。
また、理論的研究、実証的研究、制度的研究など、分野に応じてそれぞれの研究手法の基礎を習得する。

【授業内容・授業計画】
少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。
また、論文テーマの絞り込みを指導する。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。
復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
各自の研究テーマに関する最先端の研究について正確な理解が、まず求められる。

授業形態	演習	科目No.	EMRGJ3601
科目名 前期研究指導2		単位数 4	担当教員氏名 別紙1参照
Course Title Research Guidance for the Master's Course 2		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
修士論文作成について指導する。

【授業の到達目標】
研究手法を習熟させ、充実した修士論文の作成をめざす。

【授業内容・授業計画】
少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。
また、論文テーマの絞り込みを指導する。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。
復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
「前期研究指導1」を受けていることが前提である。
また、修士論文作成においては、助言教員の研究指導と助言を仰ぐ必要がある。

授業形態	演習	科目No.	EMRGJ2511
科目名 ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 中村　英樹・岡澤　亮介
Course Title Workshop		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
修了レポート・論文の構想をたてます。先行研究を調べ、それを発表することを通じて、研究の準備を行います。

【授業の到達目標】
自分の興味ある研究分野を理解することを目標にします。それに付随して、サーベイが行える、そして、それを発表できることも必要です。

【授業内容・授業計画】
お手本として、担当者がサーベイと研究を発表します。そのもと、参加者が各自の興味のもと、サーベイしそれを発表します。

第１回_イントロダクション
第２回_教員（中村）によるサーベイ
第３回_教員（岡澤）によるサーベイ
第４回_テーマの紹介と選択
第５回_研究動機の発表と質疑
第６回_研究テーマの一時的な発表
第７回_データ収集と分析の仕方
第８回_研究テーマの最終的な発表と質疑
第９回_サーベイの途中経過の発表
第10回_サーベイの本報告
第11回_サーベイに対する添削
第12回_添削に基づく質疑応答
第13回_サーベイの最終報告
第14回_参加者による意見交換
第15回_教員から研究へのアドバイス

【事前・事後の学習の内容】
講義時に学んだ研究の進め方をもとに、各自、経済分析の行い方への理解を深めること。

【評価方法】
講義時の報告、出席等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EMRGJ3611
科目名 修了論文指導		単位数 4	担当教員氏名 別紙1参照
Course Title Supervision for Final Paper		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
修了論文作成に必要な研究上の指導を行う。

【授業の到達目標】
研究手法の一層の習熟及び修了論文作成に必要な知見を習得する。

【授業内容・授業計画】
ゼミで論文草稿を報告し、内容について議論する。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_最終報告

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。
復習として、ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成したか、平常点、ゼミにおける論文草稿報告等により総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
「ワークショップ」を受けていることが前提である。

前期研究指導 1・2　及び　修了論文指導　担当教員一覧

市場・制度経済研究分野

○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○齋藤　幸平：現代資本主義論（『資本論』研究、環境政治経済学）
○岡澤　亮介：マクロ経済学（マクロ経済学の理論研究）
○北原　　稔：ミクロ経済学（応用ミクロ経済学）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○森　　誠：マクロ経済動学（分配・投資行動と資本主義経済の成長）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）
○中川　　満：統計理論（単位根分析に対する構造変化の影響に関する研究）
○若森みどり：経済学説史（市場社会と経済制度の思想史研究、現代社会経済思想）
○中村　健吾：社会思想史（マックス・ヴェーバー研究、欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権）

経済主体・ケイパビリティー研究分野

○杉田　菜穂：社会政策論（日本を中心とする人口問題と社会政策の歴史研究）
○福原　宏幸：労働経済論（失業・非正規雇用、貧困および社会的排除についての研究）
○C. ウェザーズ：比較労使関係論（日本の労使関係の比較分析）
○松本　　淳：財政政策論（公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について）
○柴田　　淳：流通経済論（生産から消費に至るまでの分業と価格形成メカニズムの分析）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○坂上　茂樹：産業技術論（技術史論に基づく産業技術論）

地域・グローバル経済研究分野

○小川　　亮：地方財政論（地方財政および地域経済に関する実証研究）
○浦西　秀司：産業経済論（公益事業の規制政策に関する計量分析）
○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○森脇　祥太：経済開発論・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の実証研究）
○朴　　一：東アジア経済論（コリア地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動に関する研究）
○金子　勝規：東南アジア経済論（タイ地域研究、ASEAN 経済論、アジアの社会開発および社会福祉に関する実証分析）
○彭　　浩：日本経済史（海外貿易と国内の産業構造の相互関連、貿易制度・商人組織の史的研究）
○脇村　孝平：アジア経済史（近現代における世界経済の形成と熱帯地域、インド社会経済史）
○岩波由香里：国際協力論（国際制度を通じた国家間協力に関する国際政治経済分析）
○久保　彰宏：国際経済論（金融危機に関する国際マクロ経済分析）
○有賀　敏之：世界経済論（多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究）

後期博士課程

分野科目

研究指導

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1701
科目名 近代経済理論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Advanced Lecture on Studies of Modern Economic Theory		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
世代重複モデルの研究

【授業の到達目標】
マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの、政策問題への応用ができるようになること。

【授業内容・授業計画】
マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを検討する。

第１回_授業の進め方の説明
第２回_教科書的世代重複モデル
第３回_教科書的世代重複モデルの含意
第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入
第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度
第６回_固定係数の下での世代重複モデル
第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意
第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度
第９回_中間まとめ
第10回_技術進歩について
第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩
第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩
第13回_技術進歩の一般的効果
第14回_質問と回答
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った疑問点を整理しておく。

【評価方法】
毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。

【テキスト又は参考書】
授業の初回に提示する。

【受講生へのコメント】
基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していることが、受講の前提である。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1702
科目名 近代経済理論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Advanced Seminar on Studies of Modern Economic Theory		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
世代重複モデルの研究

【授業の到達目標】
マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される世代重複モデルを、政策問題への応用も含め、自分で操作できるようになること。

【授業内容・授業計画】
マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを、受講生みずから計算しながら実感する。

第１回_授業の進め方の説明
第２回_教科書的世代重複モデル
第３回_教科書的世代重複モデルの含意
第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入
第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度
第６回_固定係数の下での世代重複モデル
第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意
第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度
第９回_中間まとめ
第10回_技術進歩について
第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩
第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩
第13回_技術進歩の一般的効果
第14回_質問と回答
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った疑問点を整理しておく。

【評価方法】
毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。

【テキスト又は参考書】
授業の初回に提示する。

【受講生へのコメント】
基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していること、および毎回扱うモデルの計算を自分でこなす姿勢が、受講の前提である。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1703
科目名 現代資本主義論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Advanced Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
「新自由主義」とはいったいなんであるのか？　新自由主義はどのように世界を変え、資本主義に何をもたらしたのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、新自由主義の政策とその問題点（経済格差、恐慌、環境破壊など）について学んでいく。同時に、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほど役立つかについても検討していきたい。

【授業の到達目標】
自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。
読んだ研究文献を元にレジュメ作成・研究報告を行い、ディスカッションを行う。

【授業内容・授業計画】
まずは、カール・マルクスの議論を概観する。そのうえで、リーマンショック以降の英米圏での論争を中心に、マルクス主義的な新自由主義批判を考察していく。ハーヴェイ、フォスター、ブレナー、クライマン、小西らの議論を中心に現代資本主義が抱える問題点について、議論していきたい。
関連テーマについての研究報告も歓迎する。

以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。
第１回_イントロダクション
第２回_利潤率の傾向的低下
第３回_マルクスの恐慌論
第４回_利潤率の傾向的低下への反論
第５回_新自由主義とは何か？
第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論
第７回_フォスターの過少消費説
第８回_フォスターの金融恐慌論
第９回_ブレナーの新自由主義批判
第10回_ブレナーの恐慌論
第11回_クライマンのマルクス擁護
第12回_クライマンの恐慌論
第13回_クライマンのフォスター、ハーヴェイ、ブレナー批判
第14回_小西の恐慌論と資本主義の「成熟」
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。
関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。

【評価方法】
報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
その度ごとに指定する。
英語の論文が中心となるので注意されたい。

【受講生へのコメント】
参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1704
科目名 現代資本主義論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Advanced Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
新自由主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。

【授業の到達目標】
英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。

【授業内容・授業計画】
引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて新自由主義についての考察を深める。
違ったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。

第１回_イントロダクション
第２回_利潤率の傾向的低下
第３回_マルクスの恐慌論
第４回_利潤率の傾向的低下への反論
第５回_新自由主義とは何か？
第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論
第７回_フォスターの過少消費説
第８回_フォスターの金融恐慌論
第９回_ブレナーの新自由主義批判
第10回_ブレナーの恐慌論
第11回_クライマンのマルクス擁護
第12回_クライマンの恐慌論
第13回_クライマンのフォスター、ハーヴェイ、ブレナー批判
第14回_小西の恐慌論と資本主義の「成熟」
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。
事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。

【評価方法】
報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
その度ごとに指定する。

【受講生へのコメント】
オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるよう気を付けたいと思っています。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1707
科目名 マクロ経済学研究特論		単位数 2	担当教員氏名 岡澤 亮介
Course Title Advanced Lecture on Macroeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。

【授業の到達目標】
制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。

【授業内容・授業計画】
下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。

第１回_ ガイダンス
第２回_ 文化と経済発展① 実証
第３回_ 文化と経済発展② 理論
第４回_ 文化と経済発展③ 総括
第５回_ 文化と制度① 私的所有権
第６回_ 文化と制度② 労使関係
第７回_ 文化と制度③ 再分配
第８回_ 文化と制度④ 総括
第９回_ 家族の絆と信頼① 移住
第10回_ 家族の絆と信頼② 出産
第11回_ 家族の絆と信頼③ 総括
第12回_ 家族とマクロ経済学① 人口動態
第13回_ 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転
第14回_ 家族とマクロ経済学③ 総括
第15回_ まとめ

【事前・事後の学習の内容】
参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。

【評価方法】
平常点によって評価します。

【テキスト又は参考書】
Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014.
M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.

【受講生へのコメント】
大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1708
科目名 マクロ経済学研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 岡澤 亮介
Course Title Advanced Seminar on Macroeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読したうえで、当該分野に関するレポートを作成する。

【授業の到達目標】
制度と経済発展の分野について最新の研究を踏まえて独自の観点から新しい研究を行う。

【授業内容・授業計画】
下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。

第１回_ ガイダンス
第２回_ 文化と経済発展① 実証
第３回_ 文化と経済発展② 理論
第４回_ 文化と経済発展③ 総括
第５回_ 文化と制度① 私的所有権
第６回_ 文化と制度② 労使関係
第７回_ 文化と制度③ 再分配
第８回_ 文化と制度④ 総括
第９回_ 家族の絆と信頼① 移住
第10回_ 家族の絆と信頼② 出産
第11回_ 家族の絆と信頼③ 総括
第12回_ 家族とマクロ経済学① 人口動態
第13回_ 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転
第14回_ 家族とマクロ経済学③ 総括
第15回_ まとめ

【事前・事後の学習の内容】
参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。

【評価方法】
平常点によって評価します。

【テキスト又は参考書】
Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014.
M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.

【受講生へのコメント】
大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1713
科目名 複雑系経済学研究特論		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Advanced Lecture on Economics of Complex Systems		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この授業では、経済学分野における最近の研究についてサーベイする。更に、その研究を発展させるための論点について討議する。

【授業の到達目標】
自ら発見した課題をモデル化し、エージェント・ベース・シミュレーションによって研究できる能力を身につけることを目標にする。

【授業内容・授業計画】
複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。後期課程の学生は、討議を進行するためのファシリテータとしての役割も担う。
第１回_ガイダンス
第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price
第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China
第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends?
第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System.
第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market
第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation
第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire
第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption
第10回_Why Should the Economy be Competitive?
第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle
第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics
第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure
第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction
第15回_Indian Food Supply Chains: a Game and Model to Study Economic Behavior

【事前・事後の学習の内容】
文献のレジュメを作成し、討議するための論点を見つける。

【評価方法】
授業での報告内容や討議への参加で評価する。

【テキスト又は参考書】
Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011

【受講生へのコメント】
エージェント・ベース・シミュレーションで研究を行いたい学生の受講を望む。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1714
科目名 複雑系経済学研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Advanced Seminar on Economics of Complex Systems		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピュタ上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析する、データマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。

【授業の到達目標】
エージェント・ベース・シミュレーションを用いた研究を完成させるために必要な能力を身に着けることを目標にする。

【授業内容・授業計画】
ペア科目である「複雑系経済学特殊研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現するとともに、新しい結果について報告する。また、その独自の結果についての討議をファシリテートする。
第１回_ガイダンス
第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price
第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China
第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends?
第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System.
第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market
第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation
第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire
第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption
第10回_Why Should the Economy be Competitive?
第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle
第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics
第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure
第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction
第15回_Indian Food Supply Chains: a Game and Model to Study Economic Behavior

【事前・事後の学習の内容】
「複雑系経済学特殊研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる図表を再現する。更に、論文で触れられていないシミュレーション結果を出し、その結果に関する討議内容を準備する。

【評価方法】
授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。

【テキスト又は参考書】
Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011

【受講生へのコメント】
javaによるプログラムが必要である。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1727
科目名 統計理論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Advanced Lecture on Statistics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。

【授業の到達目標】

計量経済学の理論的理解

【授業内容・授業計画】

欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。

第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model
第２回_Chapter 3 Least Squares
第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator
第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators
第５回_Inference and Prediction
第６回_Functional Form and Structural Change
第７回_Specification Analysis and Model Selection
第８回_Nonlinear Regression Models
第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model
第10回_Heteroscedasticity
第11回_Serial Correlation
第12回_Models for Panel Data
第13回_Systems of Regression Equations
第14回_Simultaneous-Equations Models
第15回_Estimation Frameworks in Econometrics

【事前・事後の学習の内容】

修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。
予復習必須

【評価方法】

平常点

【テキスト又は参考書】

Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)

【受講生へのコメント】

頑張りましょう！

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1728
科目名 統計理論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Advanced Seminar on Statistics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。これは、問題演習を行う。

【授業の到達目標】

計量経済学の理論的理解

【授業内容・授業計画】

欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。こちらは問題演習を行う。

第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model
第２回_Chapter 3 Least Squares
第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator
第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators
第５回_Inference and Prediction
第６回_Functional Form and Structural Change
第７回_Specification Analysis and Model Selection
第８回_Nonlinear Regression Models
第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model
第10回_Heteroscedasticity
第11回_Serial Correlation
第12回_Models for Panel Data
第13回_Systems of Regression Equations
第14回_Simultaneous-Equations Models
第15回_Estimation Frameworks in Econometrics

【事前・事後の学習の内容】

修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。
予復習必須

【評価方法】

平常点

【テキスト又は参考書】

Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)

【受講生へのコメント】

問題演習こそ理解への王道です。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1701
科目名 社会政策論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂
Course Title Advanced Lecture on Social Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

社会・人口問題の専門知識を習得し、あるテーマについての自分なりの考えをもつ。

【授業の到達目標】

社会・人口問題の今日的動向、今後の展望について理解を深める。

【授業内容・授業計画】

社会・人口問題の専門知識を提供する。

第１回_　ガイダンス
第２回_　少子化と社会政策
第３回_　高齢化と社会政策
第４回_　人口減少と社会政策
第５回_　人口移動と社会政策
第６回_　人口問題と子ども
第７回_　人口問題と女性
第８回_　歴史のなかの人口問題
第９回_　人口論の射程
第10回_　人口論の形成と展開
第11回_　戦後日本の家族計画
第12回_　戦後日本の社会開発
第13回_　戦後日本の家族政策
第14回_　人口問題と社会政策
第15回_　まとめ

【事前・事後の学習の内容】

講義内で指示する。

【評価方法】

平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

講義内で指定する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1702
科目名 社会政策論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂
Course Title Advanced Seminar on Social Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

人口・社会政策に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。

【授業の到達目標】

人口・社会政策の文献資料を読み解き、人口・社会政策に関する研究報告をする。

【授業内容・授業計画】

文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。

第１回_　ガイダンス
第２回_　文献資料の要約報告と討論　　ポスト人口転換期の到来
第３回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の出生動向
第４回_　文献資料の要約報告と討論　　ポスト人口転換期の死亡動向
第５回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の人口移動
第６回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期のゆくえ
第７回_　文献資料の要約報告と討論　総括
第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１
第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２
第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３
第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４
第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５
第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６
第14回_　受講者による研究発表とコメント　受講者７
第15回_　まとめ

【事前・事後の学習の内容】

文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。

【評価方法】

平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

初回の講義で指定する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1729
科目名 産業技術論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Advanced Lecture on Philosophy of Industrial Technologies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
産業技術論・技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し、固有の成果を産出する。

【授業の到達目標】
産業技術論・技術史研究に係わる専門的素養の獲得。

【授業内容・授業計画】
デジタル・エレクトロニクス技術史研究を深化させる。

第１回_ガイダンス
第２回_産業技術論特殊研究、上級基礎１　業務用録音装置AMPEX200
第３回_産業技術論特殊研究、上級基礎２　45/45ステレオレコード
第４回_産業技術論特殊研究、上級基礎３　業務用YTR PV-100
第５回_産業技術論特殊研究、上級基礎４　ベータとVHS
第６回_産業技術論特殊研究、上級応用１　CCDイメージセンサ
第７回_産業技術論特殊研究、上級応用２　ハイビジョンMUSE
第８回_産業技術論特殊研究、上級応用３　CDC101
第９回_産業技術論特殊研究、上級応用４　α-7000
第10回_産業技術論特殊研究、上級応用５　DAT DTC-1000ES
第11回_産業技術論特殊研究、固有領域１　ARMの組込み向けRISCコア
第12回_産業技術論特殊研究、固有領域２　携帯電話用LSI C5X
第13回_産業技術論特殊研究、固有領域３　ネットワーク・オーディオシステム
第14回_産業技術論特殊研究、固有領域４　LTE(64QST)
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
既存研究を渉猟し、独自の将来的展望の下に批判・発展させる。

【評価方法】
期末レポートによる。

【テキスト又は参考書】
随時指定。

【受講生へのコメント】
自らの博士論文執筆への助けとなるよう戦略を立てて欲しい。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1730
科目名 産業技術論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Advanced Seminar on Philosophy of Industrial Technologies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
産業技術論・技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し独自の成果を構築する。

【授業の到達目標】
産業技術論・技術史研究に係わる独自の発信能力の獲得。

【授業内容・授業計画】
デジタル・エレクトロニクス技術史を繙き、固有の論点を発掘する。

第１回_ガイダンス
第２回_産業技術論特殊研究、個別課題設定１　基礎理論・技術
第３回_産業技術論特殊研究、個別課題設定２　半導体技術
第４回_産業技術論特殊研究、個別課題設定３　基幹部品
第５回_産業技術論特殊研究、個別課題設定４　コンピュータ
第６回_産業技術論特殊研究、１についての発表・討議
第７回_産業技術論特殊研究、２についての発表・討議
第８回_産業技術論特殊研究、３についての発表・討議
第９回_産業技術論特殊研究、４についての発表・討議
第10回_産業技術論特殊研究、執筆のための討議
第11回_産業技術論特殊研究、１についての個別成果報告
第12回_産業技術論特殊研究、２についての個別成果報告
第13回_産業技術論特殊研究、３についての個別成果報告
第14回_産業技術論特殊研究、４についての個別成果報告
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
既存の研究成果についての自修に努めると共に、独自の視点から発展させ、既存研究全般の超克を目指す。

【評価方法】
期末レポートによる。

【テキスト又は参考書】
随時探索、選定、提供。

【受講生へのコメント】
博士論文への貢献性を重視します。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1703
科目名 都市経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 小玉　徹
Course Title Advanced Lecture on Urban Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

ポスト工業化社会の到来とともに「新しい社会リスク」という妖怪が世界を席巻している。かつての工業化時代における教育、雇用、家族形成までの単線的なライフ・トランジションのプロセスは、長期化、複線化してきている。そのことで「個人の裁量度」は高まり、多様な人生へ展望が開かれているかのように見える。しかし、多くの若者は「強いられた個人主義」のもとで、ライフ・トランジションの諸困難に直面している。

他方で「新しい社会リスク」への対応をめぐり、その責任を国家ではなく、個人と家族へ押し付ける傾向がますます強まってきている。

【授業の到達目標】

格差社会、分極化される若者（ユース・ディバイド）という事態に、われわれは、どう対処すべきなのか。実社会でトランジションの諸困難に直面している皆さんとともに考え、理解を深めることを目標とする。また、その理解度は後期博士課程に相応のものを目標とする。

【授業内容・授業計画】

通常の演習形式で行う。

第１回_「新しい社会リスク」とわたしたち
第２回_ポスト工業社会と「新しいリスク」
第３回_若者と「新しい社会リスク」
第４回_家族と「新しい社会リスク」
第５回_女性と「新しい社会リスク」
第６回_教育と「新しい社会リスク」
第７回_雇用と「新しい社会リスク」
第８回_住宅と「新しい社会リスク」
第９回_「新しい社会リスク」への対応（社会民主主義）
第10回_「新しい社会リスク」への対応（保守主義）
第11回_「新しい社会リスク」への対応（自由主義）
第12回_「新しい社会リスク」への対応（南欧）
第13回_「新しい社会リスク」への対応（東アジア）
第14回_これからの日本の課題　入門
第15回_これからの日本の課題　発展

【事前・事後の学習の内容】

テキストの予習と授業内容の復習を行うこと。

【評価方法】

授業への取り組み、報告などから、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】

小玉徹『福祉レジームの変容と都市再生』（ミルヴァ書房、2010年）
小玉徹『居住の貧困と「賃貸世代」―国際比較でみる住宅政策』（明石書房、2017年）

【受講生へのコメント】

意欲的に取り組むこと。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1704
科目名 都市経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 小玉　徹
Course Title Advanced Seminar on Urban Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

ポスト工業化社会の到来とともに「新しい社会リスク」という妖怪が世界を席巻している。かつての工業化時代における教育、雇用、家族形成までの単線的なライフ・トランジションのプロセスは、長期化、複線化してきている。そのことで「個人の裁量度」は高まり、多様な人生へ展望が開かれているかのように見える。しかし、多くの若者は「強いられた個人主義」のもとで、ライフ・トランジションの諸困難に直面している。

他方で「新しい社会リスク」への対応をめぐり、その責任を国家ではなく、個人と家族へ押し付ける傾向がますます強まってきている。

【授業の到達目標】

格差社会、分極化される若者（ユース・ディバイド）という事態に、われわれは、どう対処すべきなのか。実社会でトランジションの諸困難に直面している皆さんとともに考え、理解を深めた上で、実践的に検証することを目標とする。また、その理解度及び検証の精度は後期博士課程に相応のものを目標とする。

【授業内容・授業計画】

通常の演習形式で行う。

第１回_「新しい社会リスク」とわたしたち
第２回_ポスト工業社会と「新しいリスク」
第３回_若者と「新しい社会リスク」
第４回_家族と「新しい社会リスク」
第５回_女性と「新しい社会リスク」
第６回_教育と「新しい社会リスク」
第７回_雇用と「新しい社会リスク」
第８回_住宅と「新しい社会リスク」
第９回_「新しい社会リスク」への対応（社会民主主義）
第10回_「新しい社会リスク」への対応（保守主義）
第11回_「新しい社会リスク」への対応（自由主義）
第12回_「新しい社会リスク」への対応（南欧）
第13回_「新しい社会リスク」への対応（東アジア）
第14回_これからの日本の課題　入門
第15回_これかたの日本の課題　発展

【事前・事後の学習の内容】

テキストの予習と授業内容の復習を行うこと。

【評価方法】

授業への取り組み、報告などから、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】

小玉徹『福祉レジームの変容と都市再生』（ミルヴァ書房、2010年）
小玉徹『居住の貧困と「賃貸世代」―国際比較でみる住宅政策』（明石書房、2017年）

【受講生へのコメント】

意欲的に取り組むこと。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1705
科目名 地方財政論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 小川　亮
Course Title Advanced Lecture on Local Public Finance		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。

【授業の到達目標】
地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解でき、かつ、
自分自身の研究に応用できる高度な力をつけること。

【授業内容・授業計画】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。
（受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。）

第１回_イントロダクション
第２回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Introduction / Definitions－
第３回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Single-Product Clubs－
第４回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－The Tiebout Hypothsis－
第５回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　－Empirical Tests－
第６回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Introduction / Arguments for Multi-level Government－
第７回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Optimal Structure: Efficiency vs Stability－
第８回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets－
第９回_Ch.19 Fiscal Federalism　－Evidence on decentralization－
第10回_Ch.20 Fiscal Competition　－Introduction－
第11回_Ch.20 Fiscal Competition　－Tax Competition－
第12回_Ch.20 Fiscal Competition　－Income Distribution－
第13回_Ch.20 Fiscal Competition　－Intergovernmental Transfers－
第14回_Ch.20 Fiscal Competition　－Evidence－
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。
また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。

【評価方法】
報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。

【テキスト又は参考書】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Press

【受講生へのコメント】
修士の院生をリードするような発表、質疑応答を期待する。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1706
科目名 地方財政論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 小川　亮
Course Title Advanced Seminar on Local Public Finance		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
地方財政に関する問題意識から、関連する先行研究を網羅的にサーベイする。
さらに、リサーチクエスチョンに対して経済理論モデルに基づいた仮説を構築し、
数式モデルの展開またはデータを用いた実証によってその仮説の検証を試みる。

【授業の到達目標】
地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイが高度におこなえること、
また、理論モデルの展開や実証分析によって、オリジナルかつ高度な知見を習得し、
解説できることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
　調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。

第１回_演習の進め方
第２回_サーベイ方法
第３回_問題意識、課題の鮮明化と仮説構築
第４回_仮説の検証戦略
第５回_実践　問題意識の鮮明化
第６回_実践　課題の鮮明化
第７回_実践　仮説構築
第８回_実践　仮説の検証戦略
第９回_中間発表
第10回_実践　調査分析（前）　―データ収集・データマイニング―
第11回_実践　調査分析（中）　―予備的分析―
第12回_実践　調査分析（後）　―回帰分析―
第13回_最終発表１　　―グループ1の発表―
第14回_最終発表２　　―グループ2の発表―
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること
理論モデルは数式による表記を試みること。
統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。

【評価方法】
発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容

【テキスト又は参考書】
Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition)
Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)

【受講生へのコメント】
博士論文に使える調査研究になればよいと思います。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1707
科目名 産業経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Advanced Lecture on Industrial Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
規制の経済理論および先進諸国における規制政策について報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
産業の規制政策に関する理論および先進諸国における規制政策について説明できるようになることが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定）
第２回_Introduction to Economic Regulation
第３回_Theory of Natural Monopoly
第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power
第５回_Franchise Bidding and Cable Television
第６回_Public Enterprise
第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications
第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods
第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines
第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas
第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries
第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries
第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries
第14回_Selected Topics on Regulatory Reforms in Japan
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
Mizutani, F. (2012) Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience, Cheltenham, UK: Edward Elgar.
Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.

【受講生へのコメント】
自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1708
科目名 産業経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Advanced Seminar on Industrial Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。

【授業の到達目標】
　本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。
（１）専攻する分野を概説することができること。
（２）専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。
（３）専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。

【授業内容・授業計画】
各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方
第２回_レポートのまとめ方
第３回_テーマ選択
第４回_先行研究
第５回_現状把握（１）－制度－
第６回_現状把握（２）－データ収集－
第７回_中間レポートの報告
第８回_分析手法
第９回_データ分析（１）－データ整理－
第10回_データ分析（２）－プログラミングとパイロットテスト－
第11回_データ分析（３）－モデル推定－
第12回_分析結果の考察
第13回_課題論文の報告
第14回_発展研究
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
　予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1727
科目名 日本経済史研究特論		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Advanced Lecture on Economic History of Japan		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
主題は日本経済史の諸論点である。本学期は都市経済史の諸課題に絞りたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。

【授業の到達目標】
経済史研究の方法論を深める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。

第１回_オリエンテーション
第２回_都市史研究の現状
第３回_日本の商業都市：大阪
第４回_中国の商業都市：蘇州
第５回_日本の貿易港市：長崎
第６回_中国の貿易港市：広州
第７回_史料の解析：都市空間
第８回_史料の解析：都市運営
第９回_史料の解析：インフラ整備
第10回_史料の解析：都市と流通
第11回_事例紹介：満州国の「新京」
第12回_事例紹介：植民地時代の台北
第13回_総合議論―新しい方法論―
第14回_総合議論―学位論文の作成に向けて―
第15回_総括
＊授業の内容が必要と受講生の要望に応じて変更される可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。

【評価方法】
報告（50%）と討論（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
テキスト、特になし。
学術雑誌『都市史研究』各号、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）、『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館、2010～2013年）から都市研究の論文を選んで輪読のテキストとする。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1728
科目名 日本経済史研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Advanced Seminar on Economic History of Japan		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
経済史研究および博士論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、史料研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための関連研究の報告を行う。

【授業の到達目標】
高度な史料解読力を身につけ、博士論文の研究を着実に進めることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。

第１回_オリエンテーション
第２回_研究構想の発表　グループ１
第３回_研究構想の発表　グループ２
第４回_先行研究のまとめ　グループ１
第５回_先行研究のまとめ　グループ２
第６回_史料調査
第７回_史料調査の報告
第８回_史料研究ノート　グループ１
第９回_史料研究ノート　グループ２
第10回_全体議論
第11回_第1次研究発表　グループ１
第12回_第1次研究発表　グループ２
第13回_第2次研究発表　グループ１
第14回_第2次研究発表　グループ２
第15回_総括
＊演習の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。

【評価方法】
報告（50%）と討論（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
特になし

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1733
科目名 経済開発論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 森脇　祥太
Course Title Advanced Lecture on Development Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
開発途上国の経済発展を分析します。

【授業の到達目標】
開発途上国の経済発展を経済学の諸理論を使って分析し、計量経済学的に検証できるようになることを目標とします。

【授業内容・授業計画】
開発途上国の経済発展について分析しながら、国際比較を試みます。

第１回_　ガイダンス
第２回_　近代経済成長
第３回_　人口成長
第４回_　産業構造変化
第５回_　農業発展
第６回_　緑の革命
第７回_　輸入代替工業化
第８回_　輸出志向工業化
第９回_　貧困と所得格差
第10回_　開発と環境
第11回_　開発とガバナンス
第12回_　中国経済の発展
第13回_　NIES諸国の発展
第14回_　南米諸国の発展
第15回_　サブサハラ諸国の発展

【事前・事後の学習の内容】
教科書の予習を行い参加すること

【評価方法】
レポートで評価します。

【テキスト又は参考書】
授業開始時に指示します。

【受講生へのコメント】
積極的に授業に参加すること。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1734
科目名 経済開発論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 森脇　祥太
Course Title Advanced Seminar on Development Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
開発経済学について書かれた英語文献を輪読します。

【授業の到達目標】
開発経済学について書かれた英語文献の読解に慣れることにより博士論文の作成に役立てることが目標になります。

【授業内容・授業計画】
開発経済学について書かれた論文の輪読が授業の内容です。

第１回_　開発経済学についての論文・文献の輪読1　労働
第２回_　開発経済学についての論文・文献の輪読2　賃金
第３回_　開発経済学についての論文・文献の輪読3　価格指数
第４回_　開発経済学についての論文・文献の輪読4　国民所得の計測
第５回_　開発経済学についての論文・文献の輪読5　農業
第６回_　開発経済学についての論文・文献の輪読6　直接投資
第７回_　開発経済学についての論文・文献の輪読7　国際貿易
第８回_　開発経済学についての論文・文献の輪読8　産業構造
第９回_　開発経済学についての論文・文献の輪読9　経済成長論
第10回_　開発経済学についての論文・文献の輪読10　アフリカの開発
第11回_　開発経済学についての論文・文献の輪読11　ガバナンスと開発
第12回_　開発経済学についての論文・文献の輪読12　地球環境問題
第13回_　開発経済学についての論文・文献の輪読13　人口問題
第14回_　開発経済学についての論文・文献の輪読14　国際金融
第15回_　まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定された論文・文献を予習すること。

【評価方法】
レポートで評価します。

【テキスト又は参考書】
授業中に指示します。

【受講生へのコメント】
積極的な参加を期待します。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1735
科目名 国際協力論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 岩波　由香里
Course Title Advanced Lecture on International Cooperation		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。

【授業の到達目標】

講義で学んだ内容を踏まえ、以下の点について考察した上で、論文を作成する。①どのようなパズルが他に考えられるか、②既存のモデルの欠点や考察されていない点はどこか、③新しいモデルをどのように構築することができるか、④これまでの検証の問題点は何か、⑤どのようにすれば既存の研究とは異なる検証を行うことができるか。

【授業内容・授業計画】

第１回_Introduction
第２回_Resource Allocation
第３回_The Commitment Problem
第４回_Alliance
第５回_Audience Costs
第６回_Institutions (Reputation and Monitoring)
第７回_Institutions (Entry)
第８回_Civil War (Initiation)
第９回_Civil War (Termination)
第10回_Terrorism
第11回_Foreign Aid and Civil War
第12回_Democratic Peace
第13回_Regime Transition
第14回_Review 第1-7回
第15回_Review 第8-13回

【事前・事後の学習の内容】

・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。
・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。

【評価方法】

・発表とディスカッションへの参加　40%
・論文　60%

【テキスト又は参考書】

・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。

【受講生へのコメント】

・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。
・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。
・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1736
科目名 国際協力論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 岩波　由香里
Course Title Advanced Seminar on International Cooperation		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。

【授業の到達目標】

現代の国際社会をとりまく様々な問題について、授業で指定された論文を参考にしながら、以下の点について考察する。①何がパズルか、②既存の研究に足りないものや欠点は何か、③既存の研究に代わるものとしてどのようなアプローチをとっているか、④原因と帰結は何か、⑤原因から帰結がどのようなメカニズムで発生するのか、⑥モデルや議論から導出される仮説は何か、⑦仮説をどのように検証しているか、⑧その検証は既存の研究とどう異なるのか、⑨得られた帰結をどのように正当化しているのか、⑩政策や他の分野へのどのような提言を行っているのか。

【授業内容・授業計画】

第１回_Introduction
第２回_Resource Allocation
第３回_The Commitment Problem
第４回_Alliance
第５回_Audience Costs
第６回_Institutions (Reputation and Monitoring)
第７回_Institutions (Entry)
第８回_Civil War (Initiation)
第９回_Civil War (Termination)
第10回_Terrorism
第11回_Foreign Aid and Civil War
第12回_Democratic Peace
第13回_Regime Transition
第14回_Review　第1－7回
第15回_Review　第8－13回

【事前・事後の学習の内容】

・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。
・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。

【評価方法】

・発表とディスカッションへの参加　40%
・論文　60%

【テキスト又は参考書】

・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。

【受講生へのコメント】

・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。
・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。
・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1743
科目名 世界経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Advanced Lecture on World Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。

【授業の到達目標】

現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。

【授業内容・授業計画】

まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。

受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。

第１回_経済学と経済政策 ―この学問の成り立ち
第２回_資本制の起源 ―農民層分解と三大階級、さらに現代の経営
第３回_産業革命と社会の変容 ―その何次めかにある今日
第４回_最初のグローバリゼーション ―工業製品輸出の世界化
第５回_中進国のキャッチアップ ―手段としての関税と国民市場
第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 ―間に合った産業化
第７回_貿易思想と産業育成政策 ―WTO創設に伴うこのアプローチの射程
第８回_戦後日本の分断 ―国際競争に曝されているセクターとそれ以外
第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 ―線型発展史観の動揺
第10回_世界システム論の貢献 ―基軸経済論との対比
第11回_残された社会主義諸国 ―特異な諸類型
第12回_冷戦の終結とグローバリゼーション ―勢力圏分割の終焉
第13回_雁行形態論とPLC仮説 ―それらの前提の溶解
第14回_国際通貨システムの変容 ―2つの本位制の解体
第15回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 ―ドイツ関税同盟からEU、その先へ

【事前・事後の学習の内容】

テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。

【評価方法】

平常点によって評価する。

【テキスト又は参考書】

拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）

【受講生へのコメント】

問題意識をもって参加されたい。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1744
科目名 世界経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Advanced Seminar on World Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
　世界経済の動態を捉え、その中での多国籍企業ならびにグローバル企業の到達段階について解明する。

【授業の到達目標】
　現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。

【授業内容・授業計画】
　多国籍企業の出現、グローバル企業の登場を焦点とする現代世界経済の把握を行う。
　授業は、随時受講生の研究発表を行うとともに、テキストとして関連するテーマの英書を選定し輪読を行う。留学生主体の場合には、日本語文献をもって代える場合もある。

第１回_自己紹介と全体のガイダンス
第２回_各自の修論の概要の報告
第３回_テキストの輪読①
第４回_テキストの輪読②
第５回_テキストの輪読③
第６回_テキストの輪読④
第７回_テキストの輪読⑤
第８回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介①
第９回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介②
第10回_テキストの輪読⑥
第11回_テキストの輪読⑦
第12回_テキストの輪読⑧
第13回_テキストの輪読⑨
第14回_総括の報告①
第15回_総括の報告②

【事前・事後の学習の内容】
　各自が博論執筆に勤しむことはもとよりであるが、本演習を通じて極力視野を広げることを心がけられたい。

【評価方法】
　演習の平常点を5割、論文の執筆状況を5割として評価する。

【テキスト又は参考書】
　開講時に指示する。

【受講生へのコメント】
　問題意識をもって参加されたい。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1709
科目名 ミクロ経済学研究特論		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Advanced Lecture on Microeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。

【授業の到達目標】
各論文で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。なお、その理解度は後期博士課程に相応のものを目標とする。

【授業内容・授業計画】
NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）で取り上げられた論文を講義形式で紹介する。

第１回_ガイダンス
第２回_第1論文（記事例：Recent Trends in Intergenerational Mobility）
第３回_第2論文（記事例：Student Absences, Instructional Time, and Academic Achievement）
第４回_第3論文（記事例：Birth Order and Student Performance）
第５回_第4論文（記事例：Juvenile Incarceration and Later Criminal Activity）
第６回_第5論文（記事例：Dynamic Aspects of Family Transfers）
第７回_第6論文（記事例：Letter Grading Government Efficiency）
第８回_第7論文（記事例：Hiring Decisions for High-Value Employees: Evidence from March Madness Performance）
第９回_第8論文（記事例：Bank Performance in 1998 Explains Performance during the Recent Crisis）
第10回_第9論文（記事例：African Export Successes）
第11回_第10論文（記事例：Measuring the Long-Term Impacts of Teachers）
第12回_第11論文（記事例：Agglomeration of Bankruptcy）
第13回_第12論文（記事例：Earners' Gender Identity and Relative Income within Households）
第14回_第13論文（Parsing the Evidence of the Financial Crisis 2007-9）
第15回_第14論文（Who Creates Jobs?）

【事前・事後の学習の内容】
講義前に、NBER Digestの記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。講義後は、関連する統計について調べる。

【評価方法】
宿題及び試験により評価する。

【テキスト又は参考書】
大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）

【受講生へのコメント】
大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1710
科目名 ミクロ経済学研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Advanced Seminar on Microeconomic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。また、それを参考に、研究計画を立ててみる。

【授業の到達目標】
専門論文で何が行われているかを把握できる様になる。また、それを参考に、どの様な研究が可能そうか、検討できる様になる。様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについてもさらに知る。なお、その理解度は後期博士課程に相応のものを目標とする。

【授業内容・授業計画】
扱う論文については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、前回同様の形式を取った際には、American Economic Journal（以下AEJ）、American Economic Review（同AER）からの希望を募り、以下の論文を扱った。

第１回_ガイダンス
第２回_第1論文（参考例：Van Wincoop (2013) “International Contagion through Leveraged Financial Institutions,” AEJ: Macroeconomics）報告
第３回_第1論文ディスカッション
第４回_第2論文（参考例：Wang (2013) “Marriage Networks, Nepotism, and Labor Market Outcomes in China,” AEJ: Applied Economics（以下AE））報告
第５回_第2論文ディスカッション
第６回_第3論文（参考例：Lockwood and Porcelli (2013) “Incentive Schemes for Local Government: Theory and Evidence from Comprehensive Performance Assessment in England,” AEJ: Economic Policy（以下EP））報告
第７回_第3論文ディスカッション
第８回_第4論文（参考例：Chodorow-Reich et al. (2012) “Does State Fiscal Relief during Recessions Increase Employment? Evidence from the American Recovery and Reinvestment Act,” AEJ: EP）報告
第９回_第4論文ディスカッション
第10回_第5論文（参考例：Lindo et al. (2012) “Are Big-Time Sports a Threat to Student Achievement?” AEJ: AE）報告
第11回_第5論文ディスカッション
第12回_第6論文（参考例：Gagnepain et al. (2013) “The Cost of Contract Renegotiation: Evidence from the Local Public Sector,” AER.）報告
第13回_第6論文ディスカッション
第14回_模擬研究計画報告
第15回_模擬研究計画ディスカッション

【事前・事後の学習の内容】
報告者は、報告回で出た疑問点について、ディスカッション回までに調べておく。報告者以外も、アブストラクト・イントロダクションには目を通し、疑問点を整理しておく。また、ディスカッション回までに、報告論文を参考にした模擬研究計画を検討しておく。

【評価方法】
自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメント、また、最終的に提出する模擬研究計画により評価する。

【テキスト又は参考書】
大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）

【受講生へのコメント】
大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1719
科目名 マクロ経済動学研究特論		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Advanced Lecture on Dynamic Macroeconomics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論のより進んだ内容を講義する。

【授業の到達目標】
ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論について、より進んだ内容を理解することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
テキストを利用しながらマクロ経済動学のより進んだ理論を講義する。

第１回_ガイダンス
第２回_従来の経済成長論　1－Solowモデル－
第３回_従来の経済成長論　2－技術進歩と成長－
第４回_合理的期待　1－Muthモデル－
第５回_合理的期待　2－Caganモデル－
第６回_ラムゼーモデル　1－最大値原理－
第７回_ラムゼーモデル　2－市場均衡－
第８回_ラムゼーモデル　3－政府支出－
第９回_世代重複モデル　1－2期間モデル－
第10回_世代重複モデル　2－Diamondモデル－
第11回_世代重複モデル　3－年金－
第12回_内生的成長モデル　1－AKモデル－
第13回_内生的成長モデル　2－Romerモデル－
第14回_内生的成長モデル　3－内生的な生産性増加－
第15回_その他の話題

【事前・事後の学習の内容】
講義前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習する必要がある。講義後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。

【評価方法】
平常点あるいはテストで評価する。

【テキスト又は参考書】
Benassy(2011)*Macroeconomic Theory,* Oxford

【受講生へのコメント】
マクロ経済動学研究と演習を受講しておくことが望ましい。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1720
科目名 マクロ経済動学研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Advanced Seminar on Dynamic Macroeconomics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論についてより進んだ内容を理解する。

【授業の到達目標】
ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論について、より進んだ内容を理解することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
テキストを利用しながらマクロ経済動学のより進んだ理論の報告および討論を行う。また、練習問題を解く。

第１回_ガイダンス
第２回_従来の経済成長論　1－Solowモデル－
第３回_従来の経済成長論　2－技術進歩と成長－
第４回_合理的期待　1－Muthモデル－
第５回_合理的期待　2－Caganモデル－
第６回_ラムゼーモデル　1－最大値原理－
第７回_ラムゼーモデル　2－市場均衡－
第８回_ラムゼーモデル　3－政府支出－
第９回_世代重複モデル　1－2期間モデル－
第10回_世代重複モデル　2－Diamondモデル－
第11回_世代重複モデル　3－年金－
第12回_内生的成長モデル　1－AKモデル－
第13回_内生的成長モデル　2－Romerモデル－
第14回_内生的成長モデル　3－内生的な生産性増加－
第15回_その他の話題

【事前・事後の学習の内容】
演習前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習し報告の準備をする。演習後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。

【評価方法】
平常点あるいはテストで評価する。

【テキスト又は参考書】
Benassy(2011)*Macroeconomic Theory,* Oxford

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1725
科目名 数量経済分析論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 中村　英樹
Course Title Advanced Lecture on Quantitative Analyses of Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
理論分析と統計分析をいくつか取り上げて学習し、それらを自ら行えるようになる。

【授業の到達目標】
経済理論と統計分析を習得し、それらを使って論文が書けるようになることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。

第１回_イントロダクション（ガイダンス）
第２回_生産における機械化
第３回_機械化と経済成長
第４回_機械化と賃金
第５回_機械化と雇用
第６回_統計分析（回帰分析）の復習
第７回_経済発展と所得格差
第８回_経済発展と教育
第９回_経済発展と金融
第10回_経済発展と出生率（一般的考察）
第11回_経済発展と出生率：所得格差を絡めて
第12回_経済発展と出生率：死亡率を絡めて
第13回_経済発展と出生率：ジェンダーギャップを絡めて
第14回_理論分析（補足）
第15回_統計分析（補足）

【事前・事後の学習の内容】
予習として、研究論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、各自補足すること。

【評価方法】
経済分析を行う能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は適宜紹介する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1726
科目名 数量経済分析論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 中村　英樹
Course Title Advanced Seminar on Quantitative Analyses of Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
いくつかの理論分析と統計分析を学習しながら、経済理論や統計手法を用いた分析を自ら行う。

【授業の到達目標】
経済理論と統計分析を習得し、それらを使って論文が書けることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。

第１回_イントロダクション（ガイダンス）
第２回_テーマ選定
第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察
第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討
第５回_報告から必要となった理論分析の学習
第６回_報告から必要となった統計分析の学習
第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講）
第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察
第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討
第10回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討
第11回_報告から必要となった理論分析の復習
第12回_報告から必要となった統計分析の復習
第13回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す）
第14回_これまでの発表の中から選定し再発表：理論的考察
第15回_再発表：実証的考察

【事前・事後の学習の内容】
予習として、研究論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、自ら補足すること。

【評価方法】
経済を分析する能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は適宜紹介する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1729
科目名 経済学説史研究特論		単位数 2	担当教員氏名 若森　みどり
Course Title Advanced Lecture on History of Political Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
自らの研究テーマに関連する先行研究を深く理解し、それらを経済学史・思想史的な方法を用いて、明快かつ論理的に報告できるようになることが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
今年度は、『市民革命と産業革命』『資本の時代』『帝国の時代』『20世紀の歴史：極端な時代』などを著した世界でもっとも著名なイギリスの歴史家エリック・ホブズボームの最晩年の著作を読み解く。主たるテキストの各章や担当箇所を精読したうえで、レジュメを作成・報告し、それをもとにディスカッションや研究指導を行う。

第１回_講義の進め方（テキストを見ながら、担当者を決定）
第２回_解説①エリック・ホブズボームの生涯と著作－
第３回_社会主義・共産主義の凋落とマルクスの復活-、解説②21世紀世界をどのように変えるか
第４回_マルクス、エンゲルとマルクス以前の社会主義-学史的整理-
第５回_マルクス、エンゲルスと政治-革命の展望と未来についてのヴィジョン-
第６回_『イングランドにおける労働者階級の状態』と_『共産党宣言』について-時代・主張・分析・予見・はずれた予見-
第７回_『経済学批判要綱』の「発見」とマルクスによる資本主義以前の諸形態の分析
第８回マルクスとエンゲルスの諸著作の遍歴-第一次大戦以前、両大戦間期、第二次大戦後-
第９回_マルクス主義とその影響①-1880年から1914年まで-
第10回_マルクス主義とその影響②-反ファシズムの時代（1929年から1945年まで）-
第11回_アントニオ・グラムとその影響-イタリア史、ヘゲモニー論、グラムシの受容
第12回_マルクス主義の影響力-1945年から1983年まで-
第13回_マルクス主義の後退期-1983年から2000年まで-
第15回_マルクスと労働者階級-長い世紀-、総括

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
テキストとして次のものを指定する。エリック・ホブズボーム『いかに世界を変革するか：マルクスとマルクス主義の200年』、作品社。その他の輪読する資料は適宜指示する。

【受講生へのコメント】
自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1730
科目名 経済学説史研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 若森　みどり
Course Title Seminar on History of Political Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
各自の課題報告や論文作成に向け、相応しい課題設定および論証の展開について報告・討論を行う。

【授業の到達目標】
本講義では、資本主義あるいは市場社会についての学史的研究方法に基づいて、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身に着けることを達成目標とする。
(1)専攻する分野を概説することができること。
(2)専攻する分野で必要な分析手法を理解できること
(3)専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。

【授業内容・授業計画】
各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。

第１回_講義の進め方
第２回_レポートのまとめ方
第３回_テーマ選択
第４回_先行研究の各報告（１）、コメント
第５回_先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考
第６回_テーマ設定（１）－先行研究の分類、先行研究＋α、コメント－
第７回_中間レポートの各報告（１）、コメント
第８回_中間レポートの各報告（２）、補足、コメント、再考
第９回_先行研究の位置づけ、見直し、補足（１）－参考文献の整理－
第10回_複数の重要先行研究の各報告（１）、コメント
第11回_複数の先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考
第12回_課題論文の中間発表（１）コメント
第13回_課題論文の中間発表（２）補足、コメント、再考
第14回_発展研究
第15回_まとめ、課題論文の提出第

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】で記載した能力を身につけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
各自の研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。

授業形態	講義	科目No.	EDMIJ1733
科目名 社会思想史研究特論		単位数 2	担当教員氏名 中村　健吾
Course Title Advanced Lecture on History of Social Thought		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。

【授業の到達目標】

授業では、マーストリヒト条約（1993年）で導入されたEUシティズンシップ、リスボン条約（2009年）によって法的拘束力を得たEU基本権憲章、2003年の長期居住者指令、2010年の難民指令などを見ていくことになる。その際、英語の専門的研究文献の読解能力を高めることを目標にすえる。

【授業内容・授業計画】

まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。

第１回 イントロダクション：問題の所在
第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解
第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意
第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い
第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏
第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討
第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討
第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討
第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討
第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討
第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討
第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ
第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ
第14回 EUの難民指令の検討
第15回 回顧と展望

【事前・事後の学習の内容】

受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。

【評価方法】

学期末の研究報告書により成績を評価する。

【テキスト】

テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。
テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。

【受講生へのコメント】

移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。

授業形態	演習	科目No.	EDMIJ1734
科目名 社会思想史研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 中村　健吾
Course Title Advanced Seminar on History of Social Thought		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。

【授業の到達目標】

この演習では、EUによる共通民政策とEU加盟国における移民・難民の受け入れの現状を理解するにとどまらず、そうした現状を批判的に評価するための規範的な視座を獲得することを目標にすえる。また、英語文献を用いたプレゼンテーション能力の向上を図る。

【授業内容・授業計画】

まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。

第１回 イントロダクション：問題の所在
第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解
第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意
第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い
第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏
第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討
第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討
第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討
第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討
第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討
第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討
第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ
第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ
第14回 EUの難民指令の検討
第15回 回顧と展望

【事前・事後の学習の内容】

受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。

【評価方法】

学期末の研究報告書により成績を評価する。

【テキスト】

テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。
テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。

【受講生へのコメント】

移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1703
科目名 労働経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Lecture on Labour Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして講義を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論について理解することが求められることから、これらについても講義する。

【授業の到達目標】
博士論文執筆に必要な知見を習得させる。また、研究を進める上で必要となる分析方法について十分に理解できるようになることが達成目標である。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究課題に即して議論を深めながら、講義を行う。
第１回　授業の進め方
第２回　社会的排除／包摂論（１）―議論の歴史的発展―
第３回　社会的排除／包摂論（２）―実態把握の分析理論と政策類型―
第４回　社会的排除／包摂論（３）―EUの政策―
第５回　最低所得保障とベーシックインカム論（１）
第６回　最低所得保障とベーシックインカム論（２）
第７回　最低所得保障とベーシックインカム論（３）
第８回　アクティベーションと中間的労働市場（１）
第９回　アクティベーションと中間的労働市場（２）
第10回　個別的支援とまちづくり（１）
第11回　個別的支援とまちづくり（２）
第12回　日本における生活困窮者支援事業の展開
第13回　社会的企業と社会的連帯経済（１）
第14回　社会的企業と社会的連帯経済（２）
第15回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて
レポート提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。

【評価方法】
講義時報告、レポート等を総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
その都度、提示します。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1704
科目名 労働経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Seminar on Labour Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして、ワーキングプアや就職困難者、さらに中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などを取り上げた報告・討論を行い、各受講生の研究課題に関しても助言・指導を行う。

【授業の到達目標】
博士論文執筆に必要な知見を習得させる。また、研究を進める上で必要となる分析方法について、討論を通して本人が十分に理解できるようになることが達成目標である。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究の進捗経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を指導する。
第１回　演習の進め方
第２回　社会的排除／包摂論（１）―議論の歴史的発展―
第３回　社会的排除／包摂論（２）―実態把握の分析理論と政策類型―
第４回　社会的排除／包摂論（３）―EUの政策―
第５回　最低所得保障とベーシックインカム論（１）
第６回　最低所得保障とベーシックインカム論（２）
第７回　最低所得保障とベーシックインカム論（３）
第８回　アクティベーションと中間的労働市場（１）
第９回　アクティベーションと中間的労働市場（２）
第10回　個別的支援とまちづくり（１）
第11回　個別的支援とまちづくり（２）
第12回　日本における生活困窮者支援事業の展開
第13回　社会的企業と社会的連帯経済（１）
第14回　社会的企業と社会的連帯経済（２）
第15回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて
レポート提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。
復習として、各回の終了後、受講生には、自分の研究課題についての研究をどこまで推し進めることができたかを確認してもらうとともに、課題となった点の理解を深めてもらう。

【評価方法】
演習時報告、レポート等を総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
その都度、提示します。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1705
科目名 比較労使関係論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 チャールズ・ウェザーズ
Course Title Advanced Lecture on Comparative Industrial Relations and Political Economic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。

【授業の到達目標】
日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。また、分析能力を向上させます。

【授業内容・授業計画】
全ての参加者に参考にする資料について報告してもらい、それに基づいてディスカッションをします。また、博士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。
以下の15回の計画はサンプルコースです。参加者それぞれの興味やニーズによって調整します。

第１回_イントロダクション
第２回_日本の労使関係・雇用制度
第３回_戦後の労使関係の形成
第４回_労使関係制度の発展
第５回_春闘・賃金制度
第６回_非正規労働
第７回_均等法と女性労働問題
第８回_コミュニティユニオン及びNPO
第９回_若者と教育制度
第10回_アベノミクスと労働
第11回_北欧モデル
第12回_ドイツの労働政策
第13回_アメリカモデルと雇用制度
第14回_現在の課題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回、資料を読み、ディスカッションの準備をしてもらいます。

【評価方法】
参加者の授業への準備及び熱心な討論。

【テキスト又は参考書】
第一回目の授業で参考となる資料を提示します。

【受講生へのコメント】
現在、私は主に女性・非正規労働問題、公共部門労働問題について日米比較研究を行っていますので、政治経済や女性・ワーキングプア問題について関心がある院生に適すると思います。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1706
科目名 比較労使関係論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 チャールズ・ウェザーズ
Course Title Advanced Seminar on Comparative Industrial Relations and Political Economic Analysis		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。

【授業の到達目標】
日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。また、分析能力を向上させるとともに、資料検索および研究論文を作成するスキルを開発します。

【授業内容・授業計画】
博士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。

第１回_イントロダクション
第２回_日本の労使関係・雇用制度
第３回_戦後の労使関係の形成
第４回_労使関係制度の発展
第５回_春闘・賃金制度
第６回_非正規労働
第７回_均等法と女性労働問題
第８回_コミュニティユニオン及びNPO
第９回_若者と教育制度
第10回_アベノミクスと労働
第11回_北欧モデル
第12回_ドイツの労働政策
第13回_アメリカモデルと雇用制度
第14回_現在の課題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
研究論文を作成するため、教員の下での自立研究が求められます。

【評価方法】
論文を評価します。

【テキスト又は参考書】
参加者の研究課題に沿った内容の資料を提示します。

【受講生へのコメント】
研究スキルを向上させるため、資料検索や情報のまとめ方を重視します。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1715
科目名 財政政策論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Advanced Lecture on Public-Finance Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
現代の日本財政政策の基礎理論および政策議論についてレクチャーを行う。その際に気を付けることは財政理論、歴史、政策論をできるだけ偏りがないように講義をすることである。また、受講生が単に一方的に聞くだけではなく、講義の内容を受けてのやり取りもできるように心がける。

【授業の到達目標】
博士課程に相応しい思考や研究レベルの向上を目的とする。

【授業内容・授業計画】
毎回の講義においてレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。またレジュメおよび資料は事前に配布する。

第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス
第２回_財政学という学問の特徴・本質は何か
第３回_公共財の理論とその批判
第４回_福祉国家論について
第５回_所得再分配の理論と実際
第６回_乗数理論とその現実
第７回_高度成長期の財政史
第８回_オイルショックから臨調行革までの財政史
第９回_バブル経済とは何か
第10回_小泉改革とは何だったのか
第11回_政権交代以降の財政の状況
第12回_土建国家という日本の公共事業
第13回_生活保障機能の変化とセーフティネット
第14回_政府間財政関係について
第15回_全体を振り返っての総まとめ

【事前・事後の学習の内容】
毎回の講義の最後に次回のレクチャーについてのあらすじと参考文献を提示する。受講者は事前に予習をすることが好ましい。また、毎回配布するレジュメと資料を用いて復習することも理解を深めるにあたっては好ましい。

【評価方法】
平常点および期末レポートにより評価を行う。

【テキスト又は参考書】
特になし

【受講生へのコメント】
特になし

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1716
科目名 財政政策論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Advanced Seminar on Public-Finance Policy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本演習では財政にかかわる諸制度、とりわけ社会保障制度と他の諸制度との有機的な関係に着目しながら、今後の財政制度の在り方について受講者と議論を行う。

【授業の到達目標】
租税政策、社会保障政策、地方分権などが有機的にかかわって財政政策をトータルで考えることができる思考能力の醸成を目的とする。またその思考レベルを博士課程に相応しいレベルまで引き上げることも目標とする。

【授業内容・授業計画】
関連する論文・著作を受講者が輪読・報告を行い、それをもとに全受講者間で議論を行う。

第１回_本演習の狙いの説明とガイダンス
第２回_年金と日本経済
第３回_医療と日本経済
第４回_介護と日本経済
第５回_社会福祉と日本経済
第６回_生活扶助と日本経済
第７回_労働政策と日本経済
第８回_社会保障とインフォーマルセクター
第９回_社会保障制度と租税構造
第10回_社会保障制度と国民負担
第11回_社会保障制度の財源問題
第12回_社会保障制度と消費税
第13回_社会保障制度と租税特別措置
第14回_社会保障制度と地方分権
第15回_これまでを振り返っての総まとめ

【事前・事後の学習の内容】
報告者はもちろんのこと、受講者全員が事前の学習を行い、積極的に議論に参加することが求められる。また、授業後の復習を行うことにより理解度を高めるだけではなく、その後の議論のためにも役立つことを認識してもらいたい。

【評価方法】
平常点および期末レポートにより評価を行う。

【テキスト又は参考書】
適宜、授業中に指示する。

【受講生へのコメント】
特になし。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1721
科目名 流通経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Advanced Lecture on Distribution Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
流通経済論に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行なった上で、実践的に検証する。

【授業の到達目標】
流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけた上で、自分自身の問題意識に基づいた論文作成ができるようになること

【授業内容・授業計画】
指導教員が司会となり、取上げた論文について演習参加者全員でディスカッションを行なう

第１回_演習の進め方
第２回_垂直構造
第３回_水平的差別化
第４回_垂直的差別化
第５回_外部性
第６回_エージェンシー
第７回_複数のエージェント
第８回_コモンエージェンシー
第９回_デリゲーション
第10回_アドバースセレクション
第11回_メカニズムデザイン
第12回_小売市場における計量分析
第13回_流通チャネルにおける計量分析
第14回_発展学習
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。

【評価方法】
期末レポートに基づく

【テキスト又は参考書】
テキストは特になし。参考書は適宜指示します。

【受講生へのコメント】
大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1722
科目名 流通経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Advanced Seminar on Distribution Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
流通経済論に関係した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文をもとに議論を行なう。

【授業の到達目標】
流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけた上で、自分自身の問題意識に基づいた論文作成ができるようになること。

【授業内容・授業計画】
取上げた論文の解説を行なう

第１回_講義の進め方
第２回_垂直構造
第３回_水平的差別化
第４回_垂直的差別化
第５回_外部性
第６回_エージェンシー
第７回_複数のエージェント
第８回_コモンエージェンシー
第９回_デリゲーション
第10回_アドバースセレクション
第11回_メカニズムデザイン
第12回_小売市場における計量分析
第13回_流通チャネルにおける計量分析
第14回_発展学習
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。

【評価方法】
期末レポートに基づく

【テキスト又は参考書】
テキストは特になし、参考書は適宜指示します。

【受講生へのコメント】
大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。

授業形態	講義	科目No.	EDACJ1723
科目名 金融経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Advanced Lecture on Monetary Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル作成の技術を身に付ける。

【授業の到達目標】
金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることを前提に授業を行います。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していることを前提に授業を行います。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであることを前提にします。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。

第１回_ガイダンス
第２回_金融契約理論(イントロダクション)
第３回_金融契約理論(サーベイ)
第４回_金融契約理論(基本モデル)
第５回_金融契約理論(拡張モデル)
第６回_金融契約理論(インプリケーション)
第７回_金融契約理論(結論)
第８回_D&M(1997)モデル(イントロダクション)
第９回_D&M(1997)モデル(サーベイ)
第10回_D&M(1997)モデル(基本モデル)
第11回_D&M(1997)モデル(拡張モデル)
第12回_D&M(1997)モデル(インプリケーション)
第13回_D&M(1997)モデル(結論)
第14回_D&M(1997)モデルの批判的検討と分析の拡張
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。
前回の授業の復習をしてくること。

【評価方法】
平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。

【受講生へのコメント】
十分な予習・復習時間を確保してください。

授業形態	演習	科目No.	EDACJ1724
科目名 金融経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Advanced Seminar on Monetary Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル分析の技術を身に付ける。

【授業の到達目標】
金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることを前提に授業を行います。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していることを前提に授業を行います。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであることを前提にします。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。

第１回_ガイダンス
第２回_金融契約理論の応用(イントロダクション)
第３回_金融契約理論の応用(サーベイ)
第４回_金融契約理論の応用(基本モデル)
第５回_金融契約理論の応用(拡張モデル)
第６回_金融契約理論の応用(インプリケーション)
第７回_金融契約理論の応用(結論)
第８回_B&Rモデル(イントロダクション)
第９回_B&Rモデル(サーベイ)
第10回_B&Rモデル(基本モデル)
第11回_B&Rモデル(拡張モデル)
第12回_B&Rモデル(インプリケーション)
第13回_B&Rモデル(結論)
第14回_B&Rモデルの批判的検討と分析の拡張
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。
前回の授業の復習をしてくること。

【評価方法】
平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。

【受講生へのコメント】
毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1711
科目名 日本経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Advanced Lecture on Japanese Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。

【授業の到達目標】

わが国の家計行動の解明や家計の視点に重点をおいた政策評価、今後望まれる政策の探求への取り組みを深める。

【授業内容・授業計画】

講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_労働問題－若年者・高齢者
第３回_労働問題－女性
第４回_少子化問題－要因
第５回_少子化問題－政策
第６回_貯蓄行動・資産選択
第７回_所得格差
第８回_社会保障－年金
第９回_社会保障－医療・介護
第10回_実証分析－データ
第11回_実証分析－基本的操作
第12回_実証分析－仮説設定
第13回_実証分析－仮説検証
第14回_実証分析－レポート作成に向けて
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】

授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

テキストは、特になし。

【受講生へのコメント】

ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1712
科目名 日本経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Advanced Seminar on Japanese Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。

【授業の到達目標】

家計行動の側面から捉えた日本経済における新たな研究課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】

講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_労働問題－若年者・高齢者
第３回_労働問題－女性
第４回_少子化問題－要因
第５回_少子化問題－政策
第６回_貯蓄行動・資産選択
第７回_所得格差
第８回_社会保障－年金
第９回_社会保障－医療・介護
第10回_実証分析－データ
第11回_実証分析－基本的操作
第12回_実証分析－仮説設定
第13回_実証分析－仮説検証
第14回_実証分析－レポート作成に向けて
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】

授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

テキストは、特になし。

【受講生へのコメント】

ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1717
科目名 東アジア経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Advanced Lecture on A Study on East Asian Economies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。

【授業の到達目標】
本講義では、東アジア経済の分析理論に関する知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考える能力を身につけることを達成目標とする。

【授業内容・授業計画】
本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論
第３回_低開発の発展
第４回_世界システムと不等価交換
第５回_後発性利益と後発性不利益
第６回_新国際分業
第７回_企業内国際分業
第８回_キャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済
第10回_開発独裁
第11回_経済援助と経済制裁
第12回_経済のグローバル化と通貨危機
第13回_経済協力と自由貿易協定
第14回_経済ナショナリズムと保護主義
第15回_まとめ：レポート作成・提出

【事前・事後の学習の内容】
講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。

【評価方法】
講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年近刊

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にしておくこと。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1718
科目名 東アジア経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Advanced Seminar on A Study on East Asian Economies		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。

【授業の到達目標】
本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。
（１）東アジア経済について概説する能力があること。
（２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。
（３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。

【授業内容・授業計画】
各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。
　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。
第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。
第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。
第11回から第15回、院生による研究発表と討論。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論
第３回_低開発の発展
第４回_世界システムと不等価交換
第５回_後発性利益と後発性不利益
第６回_新国際分業
第７回_企業内国際分業
第８回_キャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済
第10回_開発独裁
第11回_経済援助と経済制裁
第12回_経済のグローバル化と通貨危機
第13回_経済協力と自由貿易協定
第14回_経済ナショナリズムと保護主義
第15回_まとめ：レポート作成・提出

【事前・事後の学習の内容】
講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。

【評価方法】
講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年近刊

【受講生へのコメント】
研究課題を明確にしておくこと。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1719
科目名 東南アジア経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Advanced Lecture on Southeast Asian Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東南アジア経済を政治制度・経済制度・文化・社会といった多角的な視点から検討する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題やジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。

【授業の到達目標】
東南アジア経済に関する理解を深め、研究課題の再発見を到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
授業の前半は講義を行い、後半は講義の中で取り上げたトピックに関する議論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー
第３回_東南アジア経済と教育・社会保障
第４回_移行経済国
第５回_農村経済
第６回_都市化とインフォーマルセクター
第７回_東南アジアの文化とビジネス
第８回_東南アジアの企業集団
第９回_アセアン経済共同体
第10回_インフラ開発
第11回_金融システム
第12回_中所得国化と経済格差
第13回_ジェンダー
第14回_環境問題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
講義時に紹介する論文を読んでおくこと。

【評価方法】
学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。

【テキスト又は参考書】
教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。

【受講生へのコメント】
文献を読み込む時間を十分にとってください。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1720
科目名 東南アジア経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Advanced Seminar on Southeast Asian Economy		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、博士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。

【授業の到達目標】
文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
毎回、論文の輪読と議論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー
第３回_東南アジア経済と教育・社会保障
第４回_移行経済国
第５回_農村経済
第６回_都市化とインフォーマルセクター
第７回_東南アジアの文化とビジネス
第８回_東南アジアの企業集団
第９回_アセアン経済共同体
第10回_インフラ開発
第11回_金融システム
第12回_中所得国化と経済格差
第13回_ジェンダー
第14回_環境問題
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
講義時に紹介する論文を読んでおくこと。

【評価方法】
学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。

【テキスト又は参考書】
教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。

【受講生へのコメント】
議論への積極的な参加を求めます。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1729
科目名 アジア経済史研究特論		単位数 2	担当教員氏名 脇村　孝平
Course Title Advanced Lecture on Asian Economic History		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー

本講義は、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることを目標とする。すなわち、19世紀半ば以降現代までの、アジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになろう。

【授業の到達目標】

本講義では、貿易史の動向を概観することによって、同時期のアジア経済の変遷の全体像を垣間見ることを意図している。多くの場合、貿易構造の変化は、背後に控える産業構造の変化、あるいは経済に関わる制度の変化、さらには国家による政策の変化などを映し出している。

【授業内容・授業計画】

毎回、パワーポイントによる講義とし、またその全データをプリントにして配る予定である。

第1回　はじめに－貿易史の意義
第2回　海禁と互市
第3回　アヘン貿易
第4回　開国と不平等条約
第5回　居留地貿易
第6回　工業化の開始
第7回　綿業基軸体制
第8回　アジア間貿易の形成
第9回　植民地の位置づけ
第10回　両大戦間期のアジア間貿易
第11回　戦時期とアジア間貿易の崩壊
第12回　戦後と冷戦体制
第13回　アジア間貿易の復活
第13回　アジア間貿易の復活
第14回　「東アジアの奇跡」
第15回　おわりに－未来に向けて

【事前・事後の学習の内容】

この講義と対になっている演習において、毎回、課題を出して、それが事前学習および事後学習となる。

【評価方法】

以下の三点で評価する。
1. 平常点
2. 授業への取り組み
3. 期末の報告書の評価

【テキスト又は参考書】

特になし。

【受講生へのコメント】

21世紀の世界経済の発展において、アジア経済が果たす役割は極めて大きい。その真の意味を考えるためにも、時計の針を約百五十年前に巻き戻してみましょう。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1730
科目名 アジア経済史研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 脇村　孝平
Course Title Advanced Seminar on Asian Economic History		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー

本講義は、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることを目標とする。すなわち、19世紀半ば以降現代までの、アジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになろう。

【授業の到達目標】

受講生には、毎回、指定された文献を事前に読むことを課すが、それに基づいて、演習では、主要な論点に関わる討議を行ってもらう。

【授業内容・授業計画】

受講生には、毎回、事前にテキストの読んでくるべき箇所を示し、それを基にした発表を行ってもらう。

第１回_オリエンテーション
第２回_第1章「前工業化経済と産業革命」
第３回_第2章「前工業化イギリスの高賃金経済」
第４回_第3章「農業革命」
第５回_第4章「低価格エネルギー経済」
第６回_第5章「なぜイギリスが成功したのか」
第７回_第6章「なぜ産業革命はイギリスで起きたのか」
第８回_第7章「蒸気機関」
第９回_第8章「綿　業」
第10回_第9章「コークス溶鉱法」
第11回_第10章「発明家、啓蒙主義そして人的資本」
第12回_第11章「産業革命から近代経済成長へ 」
第13回_総合討論（1）
第14回_総合討論（2）
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

毎回、課題を出して、それが事前学習および事後学習となる。

【評価方法】

以下の三点で評価する。
1. 平常点
2. 授業への取り組み
3. 期末の報告書の評価

【テキスト又は参考書】

R.C.アレン 著（眞嶋史叙・中野 忠・安元 稔・湯沢 威 訳）『世界史のなかの産業革命』名古屋大学出版会、2017年。

【受講生へのコメント】

21世紀の世界経済の発展において、アジア経済が果たす役割は極めて大きい。その真の意味を考えるためにも、時計の針を約百五十年前に巻き戻してみましょう。

授業形態	講義	科目No.	EDGRJ1737
科目名 国際経済論研究特論		単位数 2	担当教員氏名 久保彰宏
Course Title Advanced Lecture on International Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。

【授業の到達目標】
経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深め、解説するできることが最大の目標となる。（貿易や国際金融は演習で取り扱う）

【授業内容・授業計画】
分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。

第１回_イントロダクション
第２回_農業
第３回_農村信用
第４回_教育
第５回_労働移動
第６回_工業化
第７回_技術
第８回_開発金融
第９回_開発援助
第10回_持続可能な開発
第11回_課題報告　農業
第12回_課題報告　教育
第13回_課題報告　労働
第14回_課題報告　工業
第15回_まとめのディスカッション

【事前・事後の学習の内容】
テキストの予習と報告内容の復習を行い、最終課題レポート作成及び報告につなげていく。

【評価方法】
報告内容とレポートを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
講義中に指示する。

【受講生へのコメント】
受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。

授業形態	演習	科目No.	EDGRJ1738
科目名 国際経済論研究特論演習		単位数 2	担当教員氏名 久保彰宏
Course Title Advanced Seminar on International Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
発展途上国経済に関する文献を読む。

【授業の到達目標】
大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得て、ケーススタディを行う。

【授業内容・授業計画】
文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。

第１回_イントロダクション
第２回_不平等
第３回_貧困
第４回_人口
第５回_高齢化
第６回_教育
第７回_健康
第８回_農業発展
第９回_ミクロ経済学的視点
第10回_国際貿易
第11回_貿易理論
第12回_国際収支
第13回_経済危機
第14回_資本移動
第15回_開発援助

【事前・事後の学習の内容】
事前に毎回の内容を読み終えておくことが求められる。
毎回の内容から関心の強い分野をレポートとしてまとめる。

【評価方法】
分担報告のレポート
関心のある分野についてのレポート

【テキスト又は参考書】
演習中に指示する。

【受講生へのコメント】
受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。

授業形態	演習	科目No.	EDRGJ1701
科目名 後期研究指導1		単位数 4	担当教員氏名 別紙2参照
Course Title Research Guidance for the Doctoral Course1		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
博士論文執筆に必要な知見を習得させる。

【授業の到達目標】
博士論文の部分草稿を作成する。

【授業内容・授業計画】
当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。
また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
各自の研究テーマに関して、先端研究の正確な理解の上に、各自の独自な視点を見出すこと。

授業形態	演習	科目No.	EDRGJ3801
科目名 後期研究指導2		単位数 4	担当教員氏名 別紙2参照
Course Title Research Guidance for the Doctoral Course2		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
博士論文執筆に必要な指導を行う。

【授業の到達目標】
レフェリー誌への投稿論文を完成させる。その上で、２本目の投稿論文を作成する。

【授業内容・授業計画】
「後期研究指導1」に引き続き、当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。
また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
「後期研究指導1」を受けていることが前提である。

授業形態	演習	科目No.	EDRGJ5901
科目名 後期研究指導3		単位数 4	担当教員氏名 別紙2参照
Course Title Research Guidance for the Doctoral Course3		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 通年

【科目の主題】
博士論文作成の指導を行う。

【授業の到達目標】
論文草稿を基に、長所短所を指摘し、充実した博士論文を完成させる。

【授業内容・授業計画】
年度当初に、論文題目、章別編成を作成し、中間段階で、論文草稿、要旨を作成する。
その後、論文の審査委員会、公聴会での意見を反映させ、博士論文を完成させる。

第１回_ガイダンス
第２回_報告及び討論
第３回_報告及び討論
第４回_報告及び討論
第５回_報告及び討論
第６回_報告及び討論
第７回_報告及び討論
第８回_報告及び討論
第９回_報告及び討論
第10回_報告及び討論
第11回_報告及び討論
第12回_報告及び討論
第13回_報告及び討論
第14回_報告及び討論
第15回_報告及び討論
第16回_報告及び討論
第17回_報告及び討論
第18回_報告及び討論
第19回_報告及び討論
第20回_報告及び討論
第21回_報告及び討論
第22回_報告及び討論
第23回_報告及び討論
第24回_報告及び討論
第25回_報告及び討論
第26回_報告及び討論
第27回_報告及び討論
第28回_報告及び討論
第29回_報告及び討論
第30回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出

【事前・事後の学習の内容】
予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。
復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。

【評価方法】
【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】
担当教員が個別に指示する。

【受講生へのコメント】
「後期研究指導2」を受けていることが前提である。

後期研究指導 1・2・3　担当教員一覧

市場・制度経済研究分野

○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○森　　誠：マクロ経済動学（分配・投資行動と資本主義経済の成長）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）
○中村　健吾：社会思想史（マックス・ヴェーバー研究、欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権）

経済主体・ケイパビリティー研究分野

○福原　宏幸：労働経済論（失業・非正規雇用、貧困および社会的排除についての研究）
○C. ウェザーズ：比較労使関係論（日本の労使関係の比較分析）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○坂上　茂樹：産業技術論（技術史論に基づく産業技術論）

地域・グローバル経済研究分野

○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○森脇　祥太：経済開発論・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の実証研究）
○朴　　一：東アジア経済論（コリア地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動に関する研究）
○脇村　孝平：アジア経済史（近現代における世界経済の形成と熱帯地域、インド社会経済史）

＊　注意事項

＊　杉本キャンパスマップ

＊　教員名簿

注 意 事 項

・定期試験受験上の注意

1　試験会場においては、黒板に提示してある着席表のとおり着席すること。

2　各自の机上に学生証を提示しておくこと。万一学生証を忘れたときは必ず学生サポートセンター経済学研究科教務担当に申し出て指示を受けること。

3　解答しないで退場する場合は、試験開始後 30 分を経過し、かつ、問題用紙および答案用紙を監督者に返還した後でなければ退場することができない。

4　遅刻した者は試験開始 20 分経過後は入場することができない。

5　不正行為を行なった者に対してはその期の成績はすべて無効とする。

・交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

1　交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

① JR阪和線全線

② 大阪市営地下鉄御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

2　気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

（別表）

運行再開・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午 前 7 時 以 前		全時限
午 前 10 時 以 前	1・2 時限	3・4・5 時限
午前 10 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

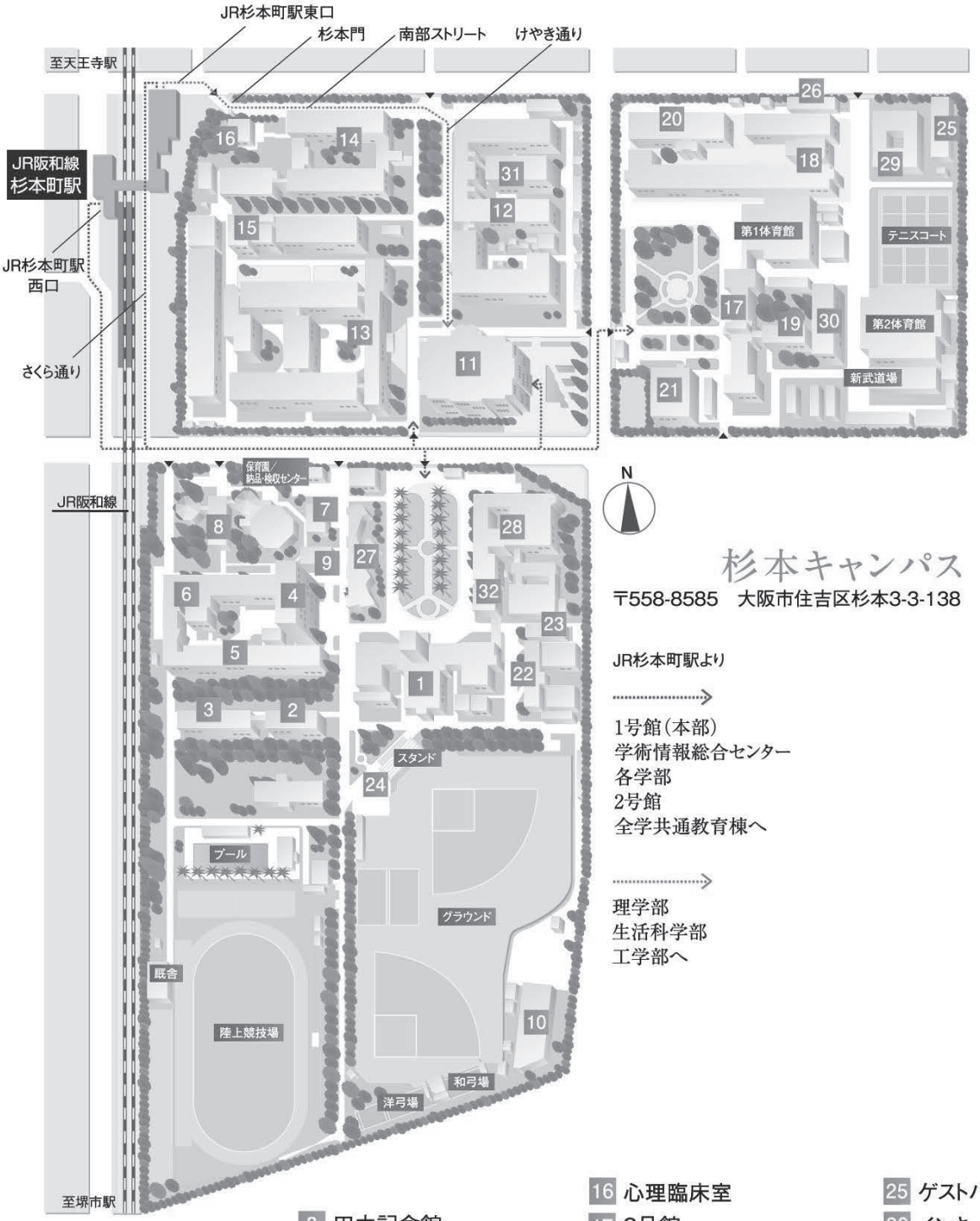
※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。

※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。

※別段の決定をするときは、学生サポートセンター1階にある経済学部掲示板に掲示をする。

・感染症等罹患時の措置について

本学では、学校保健安全法の定めにより、「学校において予防すべき感染症」に罹患、または罹患した疑いがある場合、大学内での感染拡大を予防するため、出席停止の措置をとることになっている。詳細については全学ポータルサイト（https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/）を確認し、所定の手続きを行う必要がある。



杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

→

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

→

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
・新産業創生研究センター
・事務室
（職員課、財務課、管理課
学務企画課、研究支援課）

2 商学部棟

3 経済学部棟

4 法学部棟

5 文学部棟

6 経済研究所棟
・創造都市研究科
・人権問題研究センター
・証券研究センター

7 都市研究プラザ

8 田中記念館
・事務室
（大学サポーター支援室）

9 保健管理センター

10 河海工学実験場

11 学術情報総合センター
・大学史資料室
・事務室
（情報推進課
学術情報総合センター運営課）

12 理学部棟
・数学研究所

13 工学部棟

14 生活科学部棟

15 工作技術センター

16 心理臨床室

17 2号館
・都市健康・スポーツ研究センター
・複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
・英語教育開発センター
・大学教育研究センター
・事務室
（共通教育支援室（学務企画課）
国際センター）

19 4号館

20 基礎教育実験棟

21 第1学生ホール

22 第2学生ホール

23 第3学生ホール

24 スポーツハウス

25 ゲストハウス

26 インキュベータ

27 高原記念館
・地域連携センター

28 学生サポートセンター
・事務室
（内部監査室、大学改革・戦略課
広報室、安全衛生管理室
学務企画課、学生支援課
入試室、就職支援室）

29 共通研究棟

30 人工光合成研究センター

31 理系共通実験棟

32 本部棟
・事務室
（企画総務課）

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
	２階	企画別共同研究室Ａ～Ｄ、院生用教室
1　１号館	２階	１２Ａ、１２Ｂ、１２Ｅ、１２Ｆ １２０～１２８
	３階	１３Ａ～１３Ｇ １３０～１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１～５２４
	３階	５３Ｅ１・５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	11 階	７１１-Ａ～７１１－Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０～８１６ 自習室
	２階	８２０～８２２
	３階	８３Ａ～８３Ｌ ８３０～８３５
	４階	８４Ａ ８４０～８４９ 外国語特別演習室１～５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

経済学研究科専任教員

			研究室 TEL 06-6605-	
C．ウェザーズ	教　授	比較労使関係論研究	2274	weathers@econ.osaka-cu.ac.jp
有賀敏之	〃	世界経済論研究	2492	aruga@gscc.osaka-cu.ac.jp
浦西秀司	〃	産業経済論研究	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
坂上茂樹	〃	産業技術論研究	2266	sakagami@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野由紀子	〃	日本経済論研究	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
辻　賢二	〃	金融経済論研究	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋哲也	〃	近代経済理論研究	2281	nakajima@econ.osaka-cu.ac.jp
中島義裕	〃	複雑系経済学研究	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村健吾	〃	社会思想史研究	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村英樹	〃	数量経済分析論研究	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴　一	〃	東アジア経済論研究	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
福原宏幸	〃	労働経済論研究	2293	fukuhara@econ.osaka-cu.ac.jp
松本　淳	〃	財政政策論研究	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森　誠	〃	マクロ経済動学研究	2263	mori@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇祥太	〃	経済開発論研究	2269	moriwaki@econ.osaka-cu.ac.jp
若森みどり	〃	経済学説史研究	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
脇村孝平	〃	アジア経済史研究	2285	wakimura@econ.osaka-cu.ac.jp
岩波由香里	准教授	国際協力論研究	2292	iwanami@econ.osaka-cu.ac.jp
岡澤亮介	〃	マクロ経済学研究	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
小川　亮	〃	地方財政論研究	2265	r.ogawa@econ.osaka-cu.ac.jp
金子勝規	〃	東南アジア経済論研究	2496	kaneko@gscc.osaka-cu.ac.jp
北原　稔	〃	ミクロ経済学研究	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
久保彰宏	〃	国際経済論研究	2291	kubo@econ.osaka-cu.ac.jp
齋藤幸平	〃	現代資本主義論研究	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田　淳	〃	流通経済論研究	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田菜穂	〃	社会政策論研究	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
中川　満	〃	統計理論研究	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
彭　浩	〃	日本経済史研究	2295	Penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	行動情報論研究

非常勤講師

鹿野繁樹	計量分析	大阪府立大学経済学研究科
松澤俊雄	構造分析	大阪市立大学名誉教授

創造都市研究科教員

			研究室 TEL
小玉　徹	教　授	都市経済論研究	06-6605-2484